

おお い い せき  
大井遺跡

おお く ぼ い せき  
大久保遺跡

1997年3月

長野県飯田市教育委員会

おお い い せき  
大井遺跡

おお く ぼ い せき  
大久保遺跡

1997年3月

長野県飯田市教育委員会

## 序

飯田市座光寺地区は飯田市街地の北東部、天竜川河岸から木曾山脈前山の麓までの細長い範囲を占めています。川沿いの平坦地から段丘面・扇状地等に、比較的広い耕地が広がっています。また、古来交通の要衝に位置しており、古代伊那郡衙である恒川遺跡群等の埋蔵文化財をはじめ多くの文化財を残しています。これらは私たちの地域社会や文化を形作ってきた様々な証であり、できる限り現状のままで後世に伝えることが私たちの責務でしょう。けれども、同時に私たちはよりよい社会や生活を求めていく権利を持っています。ですから、日常生活の様々な場面で文化財の保護と開発という相容れない事態に直面することが多くなっています。こうした場合、発掘調査を実施して記録にとどめることもやむを得ないものといえましょう。

下伊那地方事務所は、平成7年度から座光寺地区の山麓と高森町中段を結ぶ農道の新設を計画しました。農道を建設して農業の近代化に対応することは、車が欠くことのできない交通手段であることを考えれば、必要な事業といえます。しかし、当該事業地には大井遺跡・大久保遺跡が存在し、工事実施によって壊されてしまうおそれがありました。そこで、次善の策ではありますが、工事実施に先立って緊急発掘調査を実施して、記録保存を図ることになりました。

調査成果は本文で述べられているとおりであります。調査で得られました様々な知見は、これからの地域の歴史を知っていく上で貴重な資料となると確信しています。

最後になりましたが、調査に当たって多大なご理解とご協力をいただいた下伊那地方事務所と隣接地の方々、現地作業及び整理作業に従事された作業協力員の皆さんほか関係各位に深く感謝を申し上げますとともに、ここに発掘調査報告書が刊行できますことに対して厚くお礼申し上げます。

平成9年3月

飯田市教育委員会

教育長 小林 恭之助

## 例 言

1. 本書は県単農道整備事業湯ヶ洞地区工事に先立って実施された、飯田市座光寺「大井遺跡・大久保遺跡」の埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書である。
2. 調査は、下伊那地方事務所からの委託を受け、飯田市教育委員会が実施した。
3. 調査は、平成7年度に現場作業、平成8年度に整理作業及び報告書作成作業を行った。
4. 調査実施に当たり、基準点測量・空中測量・空中写真撮影を株式会社ジャステックに委託した。
5. 発掘作業・整理作業に当たり、遺跡略号として遺跡中心地番を含めて大久保遺跡はO O K1378-87を、大井遺跡はO O I1310-1を一貫して用いた。
6. 本報告書では以下の遺構番号を使用している。竪穴住居址－S B、集石（炉）－S I、溝址－S D、土坑－S K、その他－S X
7. 本報告書の記載順は竪穴住居址を優先した。遺構図は本文とあわせ挿図とし、遺物及び写真図版は本文末に一括した。
8. 土層の色調については、『新版標準土色帖』の表示に基づいて示した。
9. 本書に関わる図面の整理は、調査員・整理作業員の協力により山下誠一が行った。
10. 本書の執筆は調査員の協議によりⅢ－1を佐々木嘉和が、それ以外を山下誠一執筆し、編集は山下誠一が行った。
11. 本書の遺構図にの中に記した数字は、検出面・床面からそれぞれの穴の深さ（単位cm）を表している。
12. 本書に関連した出土遺物及び図面写真類は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館に保管している。

# 本文目次

序	
例言	
I 経過	1
1. 調査に至るまでの経過	1
2. 調査の経過	1
1) 大久保遺跡	1
2) 大井遺跡	1
3) 整理作業・報告書作成	2
3. 調査組織	2
1) 調査	2
2) 指導	2
3) 事務局	3
II 遺跡の環境	5
1. 自然環境	5
2. 歴史環境	5
III 調査結果	9
1. 大久保遺跡	9
1) 調査の方法と概要	9
2) 基本層序	9
3) 遺構と遺物	10
(1) 竪穴住居址	10
(2) その他の遺構	10
(3) 遺構外出土遺物	12
2. 大井遺跡	15
1) 調査の方法と概要	15
2) 基本層序	15
3) 遺構と遺物	16
(1) 集石炉	16
(2) 溝址	18
(3) その他の遺構	21
(4) 遺構外出土遺物	22
IV まとめ	23
報告書抄録	51

## 挿 図 目 次

挿図 1	大井遺跡・大久保遺跡位置図	4
挿図 2	大井遺跡・大久保遺跡調査位置図及び周辺図	7
挿図 3	基準メッシュ区画及び調査位置	8
挿図 4	大久保遺跡基本土層図	9
挿図 5	大久保遺跡遺構全体図	10
挿図 6	OOK SB01	11
挿図 7	OOK SK01・SK02・SX01	12
挿図 8	OOK 穴	13
挿図 9	大井遺跡遺構全体図	14
挿図10	大井遺跡基本土層図	16
挿図11	O O I SI01・SI02	17
挿図12	O O I SI03	18
挿図13	O O I SD01	19
挿図14	O O I SD01・SD02土層図	20
挿図15	O O I SK01・SX01・穴	21

## 図 版 目 次

第 1 図	OOKSB01出土土器	25
第 2 図	OOKSB01出土石器、SX01・SK01・SK02・遺構外出土土器	26
第 3 図	OOK遺構外出土遺物、O O I SD01出土土器	27
第 4 図	O O I SD01出土土器	28
第 5 図	O O I SD01出土石器・SD02出土遺物・SI01出土土器	29
第 6 図	O O I AA48穴出土土器・遺構外出土土器・下層調査出土石器	30
第 7 図	OOKSB01・AL3・AL4・ANO4出土石器、 O O I SD01・SD02上層・BW9出土遺物	31

## 写真図版目次

図版 1	OOKSB01床面検出 OOKSB01 (南東から) OOKSB01 (北西から)	33
図版 2	OOKSK01 OOKSK02	34
図版 3	OOKSX01 OOKSX01断ち割り	35
図版 4	OOK全景 (南東から) OOK全景 (北西から)	36

図版5	OOK全景(上空から) OOK全景(斜め上空北西から)	37
図版6	OOISI01 OOISI01断ち割り OOISI01掘り方	38
図版7	OOISI02 OOISI02断ち割り OOISI02掘り方	39
図版8	OOISI03 OOISI03断ち割り OOISI03掘り方	40
図版9	OOISD01(南東から) OOISD01(北西から) OOISD01耳栓出土状態	41
図版10	OOISD02土層 OOISK01 OOISX01	42
図版11	OOI下層調査全景(北西から) OOI全景(南東から) OOI全景(南から)	43
図版12	OOI全景(西から) OOI全景(南から)	44
図版13	OOI下層調査後全景(南から) OOI下層調査後全景(西から)	45
図版14	OOI全景(上空から) OOI全景(斜め上空北東から)	46
図版15	OOKSB01深鉢 OOKSB01深鉢 OOKSB01深鉢 OOKSX01深鉢 OOK石器	47
図版16	OOISD01深鉢 OOI石器 OOISD01耳栓 同側面 SD01管玉	48
図版17	OOK調査スナップ OOI調査スナップ OOI調査スナップ	49

# I 経 過

## 1. 調査に至るまでの経過

下伊那地方事務所土地改良課は、農道の整備が進む飯田市座光寺地区の山麓と高森町中段を結ぶ農道の新設を計画した。飯田市としては、埋蔵文化財包蔵地大井遺跡・大久保遺跡に影響が及ぶことが考えられた。そこで、平成6年9月29日に、長野県教育委員会文化課・下伊那地方事務所土地改良課・飯田市教育委員会社会教育課の三者による保護協議を実施した。その結果、2遺跡ともに遺跡の状況が明らかでないので、試掘調査を実施して、本調査の可否を判断することとした。なお、試掘調査および発掘調査の日程・費用については、事業の進捗状況を見極めながら、下伊那地方事務所・飯田市教育委員会の二者で調整をしていくことが確認された。

試掘調査は、平成7年4月26日から5月11日にかけて実施した。その結果、大久保遺跡の一部と大井遺跡に遺構・遺物が認められた。そこで、2遺跡とも本調査の対象とし、発掘対象地域を明確にして協議を進めていくこととなった。

試掘が終了した平成7年5月から、本調査の時期と費用について下伊那地方事務所・飯田市教育委員会の二者で調整を進め、平成7年6月26日付で発掘調査の委託契約書を取り交わした。なお、整理作業の実施と報告書刊行については平成8年度に実施することとなり、平成8年6月3日付で委託契約書を取り交わした。

## 2. 調査の経過

### 1) 大久保遺跡

平成7年7月11日に重機を導入して調査区の拡張を実施した。作業員の協力を得て発掘調査を開始したのは、梅雨による天候不順に影響されて、契約の現場作業終了日に近い7月18日であった。期日が迫っていたので、狭い調査区ではあったが大勢の作業員を使って19日までの2日という短期間ですべての作業を終了した。その後、図面・写真等の基本的整理を実施して、平成7年8月30日に実績報告書を提出した。

### 2) 大井遺跡

平成7年7月13日から重機による調査区拡張作業を開始した。調査対象地域が広範囲でかつ遺構検出面まで深いため調査区の拡張に期間を要したので、並行して大久保遺跡の調査が終了した7月24日から作業員を使っての作業を開始した。集石炉・溝址を検出したが、試掘段階の予想より遺構・遺物が少なかった。一部では、下層に包含層がみられたために2層にわたる調査を実施したが、9月4までに作業員を使っての調査が終了した。



現地作業が終了した段階で、費用減少と期間の短縮が見込まれたために、9月27日に発掘調査業務の変更依頼文書を下伊那地方事務所に提出し、10月2日付で変更委託契約書を締結した。その後、図面・写真等の基本的整理を実施して、平成7年11月30日に実績報告書を提出した。

### 3) 整理作業・報告書作成

平成8年度は、大久保遺跡・大井遺跡合せて事業実施するように計画した。委託契約書が締結できた6月から作業を再開した。飯田考古資料館において、出土遺物の水洗・注記・接合・復元作業、遺物実測・写真撮影作業、第2原図の作成・トレース・版組等を行い、原稿を執筆して本発掘調査報告書を作成した。

## 3. 調査組織

### 1) 調査

調査担当者	佐々木嘉和	山下 誠一			
調査員	小林 正春	吉川 豊	馬場 保之	吉川 金利	福澤 好晃
	下平 博行	伊藤 尚志	上沼 由彦		
作業員	新井 幸子	池田 幸子	伊東 裕子	井坪 節	井上 恵資
	今村 勝次	今村 春一	大田 沢男	岡田 直人	岡田 紀子
	奥村 栄子	金井 照子	金子 正子	金子 裕子	唐沢古千代
	川上 一子	北原久美子	北原 裕	木下 早苗	木下 玲子
	櫛原亜紀子	櫛原 勝子	久保田定男	熊谷 義章	熊谷 直実
	熊崎三代吉	小池千津子	小平不二子	小平 峯子	小林 千枝
	斉藤 薫	斉藤 徳子	左近美智子	榊原 政夫	桜井かのへ
	佐々木真奈美	佐々木美千枝	佐々木文茂	佐藤知代子	清水 三郎
	代田 和登	関島真由美	瀬古 郁保	竹本 常子	田中 薫
	仲田 昭平	中島佳寿子	鳴海 紀彦	西山あい子	服部 光男
	原田四郎八	平栗 陽子	樋本 宣子	福沢 育子	福沢 幸子
	福沢トシ子	古林登志子	古根 素子	星本 初子	正木実重子
	松沢美和子	松沢 豊	牧内喜久子	牧内 八代	松下 成司
	松下 友彦	松下 節子	松下 光利	松島 保	松本 恭子
	松村かつみ	三浦 厚子	南井 規子	森藤美知子	柳沢 謙二
	吉川 和宏	吉川紀美子	吉沢佐紀子		

### 2) 指導

長野県教育委員会

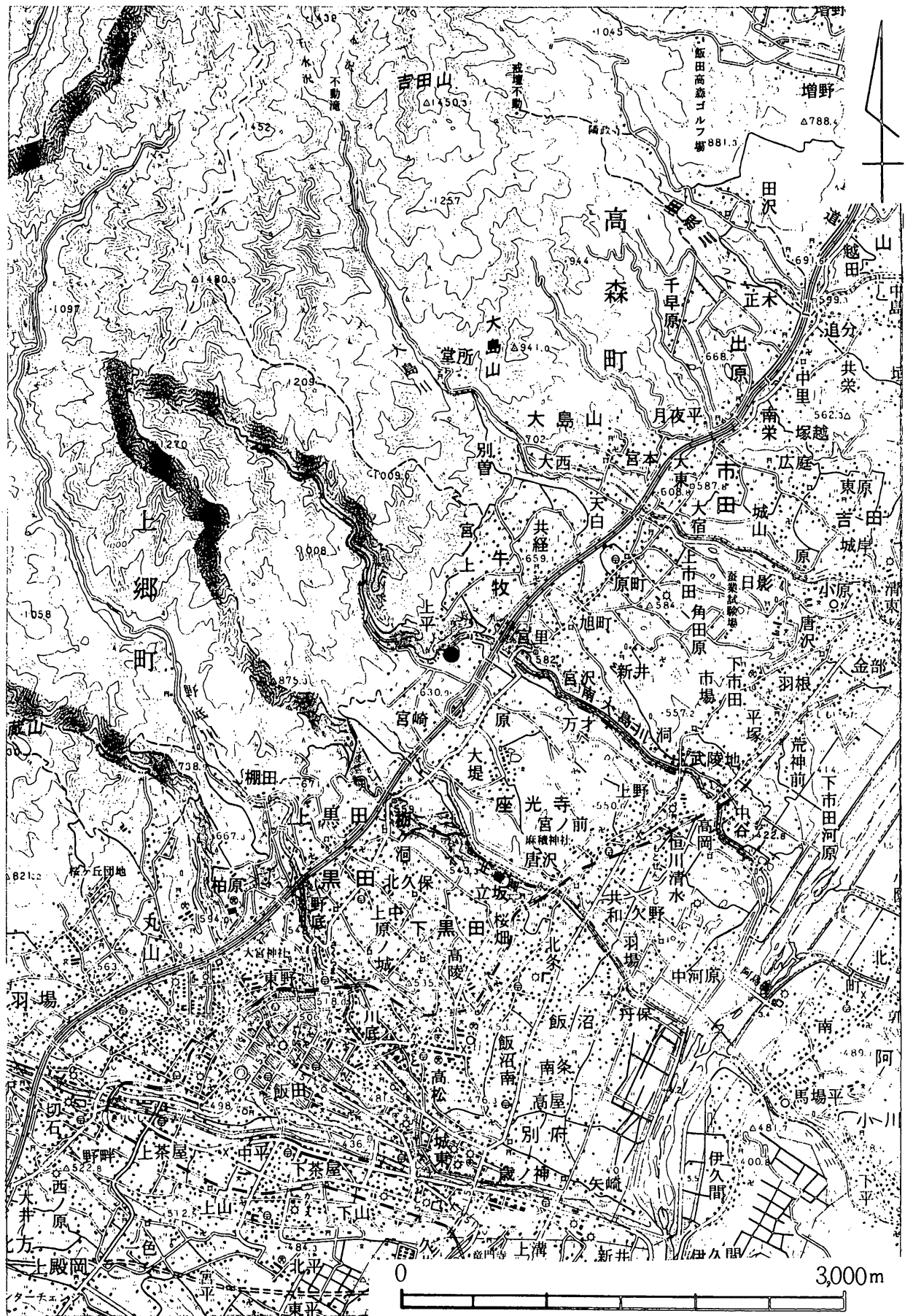
### 3) 事務局

飯田市教育委員会社会教育課（平成8年6月30日まで）

横田 穆（社会教育課長）  
小林 正春（〃 文化係長）  
吉川 豊（〃 文化係）  
山下 誠一（〃 〃）  
馬場 保之（〃 〃）  
吉川 金利（〃 〃）  
福澤 好晃（〃 〃）  
下平 博行（〃 〃）  
伊藤 尚志（〃 〃）  
岡田 茂子（〃 社会教育係）

飯田市教育委員会博物館課（平成8年7月1日から）

矢沢 与平（博物館課長）  
小林 正春（〃 埋蔵文化財係長）  
吉川 豊（〃 埋蔵文化係）  
山下 誠一（〃 〃）  
馬場 保之（〃 〃）  
吉川 金利（〃 〃）  
福澤 好晃（〃 〃）  
下平 博行（〃 〃）  
伊藤 尚志（〃 〃）  
牧内 功（〃 庶務係）



挿図1 大井遺跡・大久保遺跡位置図 (1 : 50,000)

# I 遺跡の環境

## 1. 自然環境

飯田市座光寺地区は市街地の北東4kmにあり、北東を下伊那郡高森町、南東は天竜川を挟んで同喬木村、南西を飯田市上郷と接しており、飯田市の北端部に位置している。

飯田市は赤石山脈と木曾山脈にはさまれた伊那谷の南端にあたり、両山脈の間を天竜川が南流する。天竜川による典型的な河岸段丘が見られるとともに、山脈の形成に関わる断層地塊運動に伴ない盆地・大きな段丘崖が形成されており、複雑な段丘地形を呈している。

座光寺地区の場合、断層運動でつくられた段丘で大きく上段と下段に分けられる。上段は木曾山脈の山裾部から大規模な扇状地が発達し、扇端から段丘縁辺にかけては小河川の開析・湧水等微地形の変化が著しい。特に地区を区画する北側の南大島川、南側の土曾川・栃ヶ洞川による扇状地の形成、開析谷の浸食は著しい。下段は数段の小段丘からなり、恒川遺跡群が立地する上位の段丘面の場合、北側は南大島川から扇状地が発達するのに対し、南側は比較的段丘面がよく残る等複雑な微地形を呈する。

大久保遺跡・大井遺跡は飯田市座光寺地区の北端部に所在する。座光寺地区と高森町を画する南大島川が木曾山脈より流れ出しており、その南側に両遺跡とも位置する。

微地形をみると、大久保遺跡は南大島川によって形成された扇状地の扇央部に立地し、北側は南大島川の浸食による開析谷となり、比高差30mを測る崖となっていて、その下には大井遺跡がある。南西側は南大島川の旧河道と考えられる浅い窪地があり、それを挟んで大門原遺跡・座光寺原遺跡が隣接する。南東側は同一尾根上の北並木遺跡に接している。現地目は座光寺有数の果樹園となっていて、耕地の造成等による地形改変は比較的受けていない。

大井遺跡は、南大島川が解析した幅の狭い谷に立地し、現河床から比高差5m程度を測る。前述した南大島川の解析による崖が南側にあり、そこから河床までの200×70mが遺跡範囲となる。現河床の北側へ緩く傾斜していて、畑等の造成により大きく地形を変えている。

## 2. 歴史環境

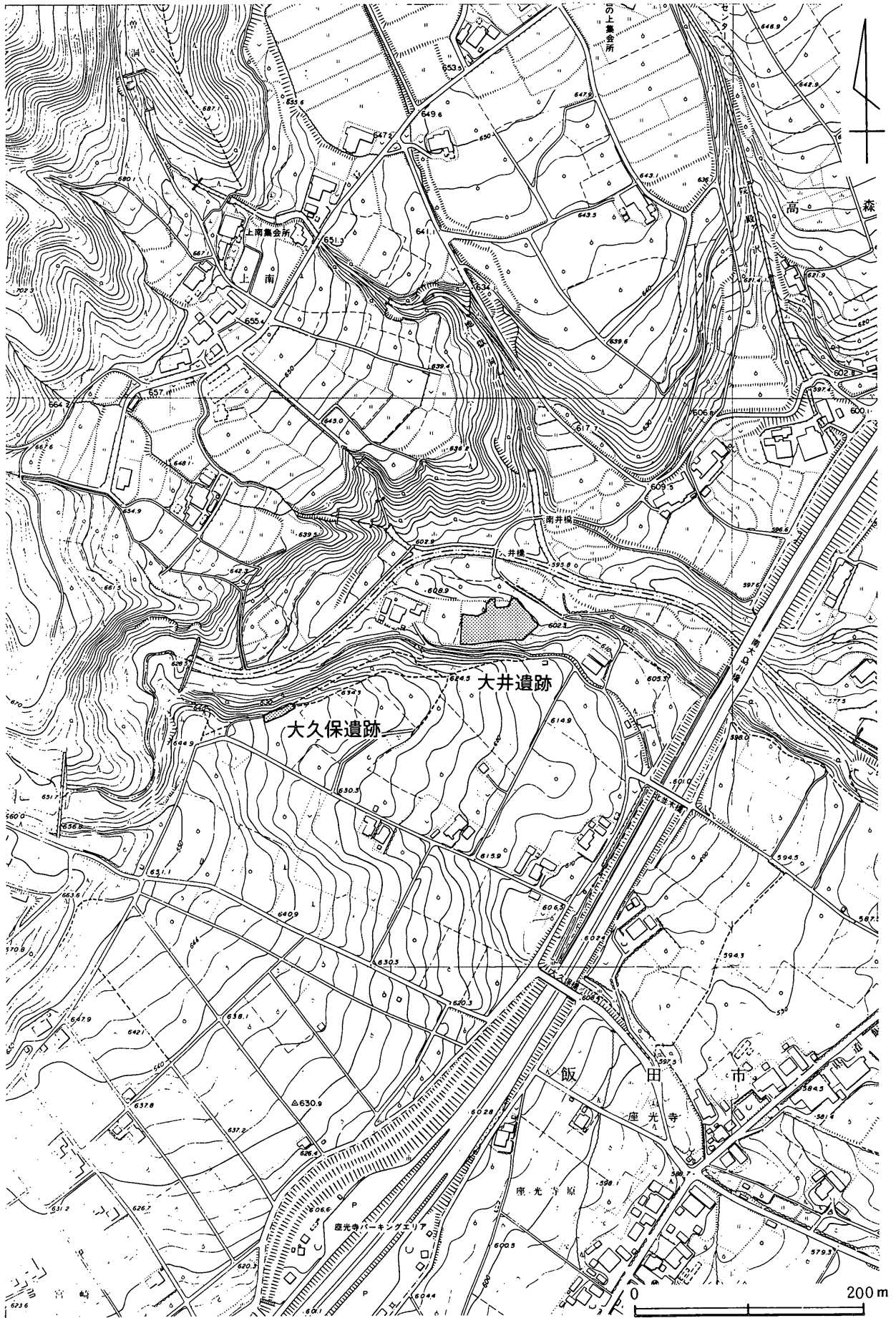
座光寺地区は土器・石器等の遺物や古墳の多いことで古くから知られており、埋蔵文化財包蔵地が濃密に分布している。こうした文化財に表われた先人達の活動の証左は旧石器時代末までさかのぼる。前述の自然環境で概観した地形的特徴が当地区の遺跡立地に大きくかかわっており、上段・下段で遺跡の分布や性格が異なっている。また、発掘調査された遺跡が多く、全時代にわたって具体的な様相を描くことができる。

上段は縄文時代から弥生時代にかけての遺跡が多く、とくに山麓部には縄文時代の遺跡が集中し、鳥居龍蔵の調査で知られた大門原遺跡等がある。東面した緩傾斜の扇状地扇央部分にあたり、大規模な集落址の存在がうかがえる。大門原遺跡は平成8年度に農道改良に伴い発掘調査が実施されており、縄文

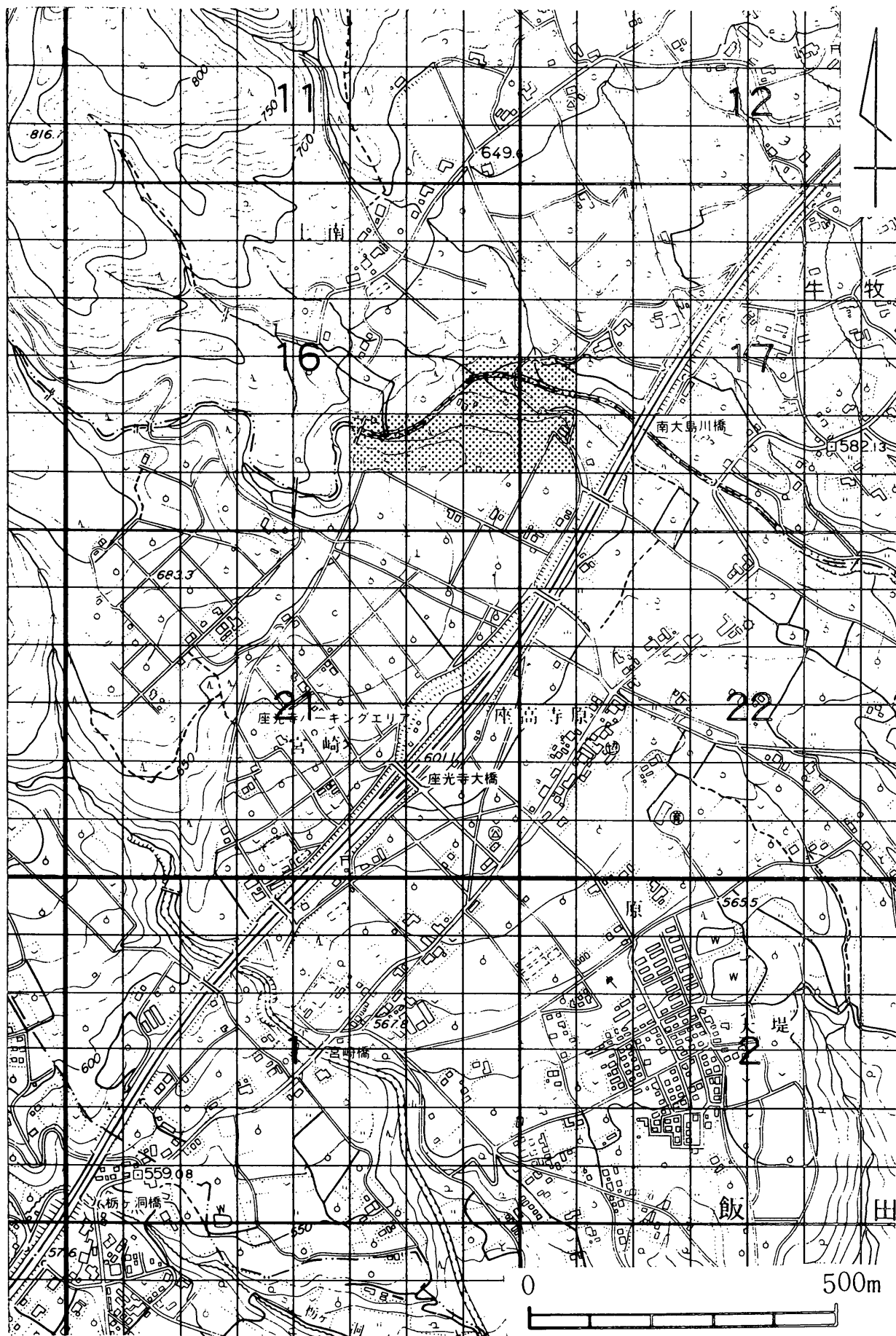
時代中期中葉から後葉の伊那谷有数の大集落が広がっていることが確認されつつある。扇端から上段の段丘崖にかけては弥生時代後期の遺跡が分布する。高燥な台地上に生産基盤を求めた該期に共通する現象であり、具体的には人口増と生産手段の発達を背景と考えられる。昭和37年、前年の梅雨前線による集中豪雨（36災）の災害復旧工事に用採土のため調査された弥生時代後期前半の座光寺原遺跡（今村善興1967）、昭和50（1975）年農業構造改善事業に伴ない道路部分が調査された弥生時代後期後半の中島遺跡（下伊那誌編纂會1991）等該期の典型的な集落がある。中島遺跡は平成8年度に広域農道新設に先立ちその東側部分が発掘調査され、集落の広がりを把握することができた。段丘崖上部には北本城古墳をはじめとする古墳および中世の山城2つがある。後者は北本城と南本城であり、小河川に開析された複雑な地形を生かしている。

下段地帯は縄文時代から近世にかけての遺跡が複合しており、時代毎占地した地点を若干異にしている。縄文時代の集落は主に南大島川から発達した扇状地に立地する。中期を除く他時期は遺物が中心で集落の実態は明確でないが、資料が十分でない各期にあって比較的良好な資料を提示している。中期は座光寺バイパス路線内の新井原遺跡で後葉の大規模な集落の一部が調査されている（飯田市教育委員会1986）。弥生時代中期から古墳時代前期にかけては弥生時代後期に一時的に拡大するものの基本的に南大島川の扇状地上に位置し、古墳時代後期から平安時代の集落は扇状地および南側の段丘面に拡大する。一方、古墳の分布は該期集落の外縁の、高岡第1号古墳を中心とする北部の扇状地扇頂付近および遺跡群東側の段丘崖上にみられる。これまで調査された古墳は新井原第12号古墳（大正11年）・畦地第1号古墳（同12年）等ごく少数で、現在までに調査されずに消滅した古墳は数多くに上る。

昭和51（1976）年度から実施された一般国道153号座光寺バイパス建設に先立つ恒川遺跡群発掘調査の結果、大型掘立柱建物址群や硯・鉄鈴・和同開珎銀錢等の官衙的遺構・遺物が多数発見されている（飯田市教育委員会1986）。そして、昭和57（1982）年度から飯田市教育委員会が継続実施している範囲確認調査の中で、古代「伊那郡衙」が追究されてきた。その結果、平成6年度の調査で正倉となる大型の掘立柱建物址が調査され、なお郡衙の中心部は不明であるものの、具体的地点をあげて推定される段階に至った。同時に遺跡群内の各地点が果たした役割が遺構分布状況から描出されてきている。またバイパス周辺の諸開発に先立つ緊急調査の結果、田中・倉垣外地籍、新屋敷地籍周辺の遺構分布が明らかにされつつある（飯田市教育委員会1988・1991A・1991B）。



挿図2 大井遺跡・大久保遺跡調査位置図及び周辺図（1：5,000）



挿図3 基準メッシュ区画及び調査位置 (1 : 10,000)

### Ⅲ 調査結果

#### 1. 大久保遺跡

##### 1) 調査の方法と概要

調査対象地は試掘調査によって遺物が検出された遺跡北端部にあたる。微地形をみると、遺跡南側に窪地があり、その西斜面部分が対象となった。北側は大島川が開析した谷となり、比高差30mを測る崖となっていた。

測量用の基準杭設置は、飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図に基づいて、(株)ジャステックに委託して実施した。なお、基準メッシュ図の区画については『三尋石遺跡 三尋石(Ⅱ)遺跡』(飯田市教育委員会1996)に詳しく記述されているので、そちらを参照していただきたい。本調査地の区画は挿図3で示したようにLC65 16-38・16-39である。

今次調査で検出された遺構は以下のとおりである。

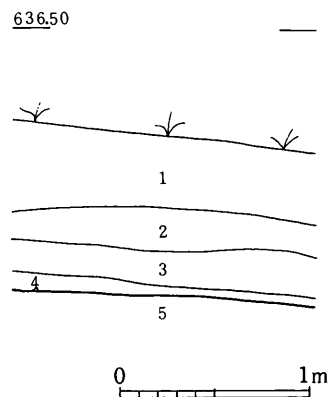
竪穴住居址……………1軒  
土 坑……………2基  
埋設土器……………1基  
穴 ……………7

##### 2) 基本層序

SK02の西側、用地外との南に面する壁面の層序を挿図4で示した。

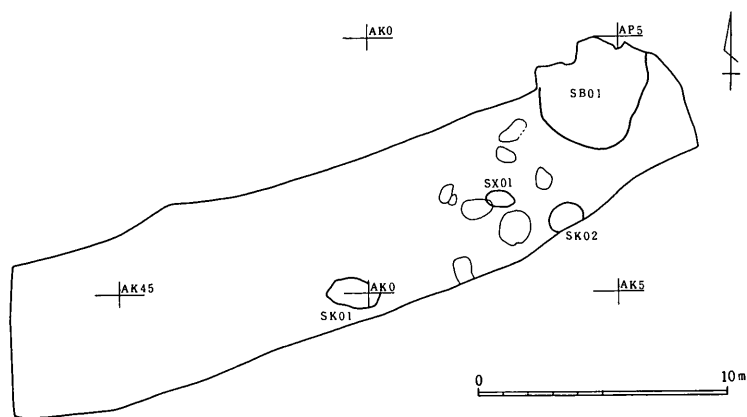
- 1層：褐灰色土 (10Y R4/1)、耕土
- 2層：明褐色土 (10Y R6/6)
- 3層：黒褐色土 (10Y R3/1)
- 4層：褐色土 (10Y R4/4)
- 5層：にぶい黄褐色砂質土 (10Y R5/4)、基盤

遺構検出面は基盤の5層上面で、比較的容易に検出できた。



挿図4 大久保遺跡基本土層図





挿図5 大久保遺跡遺構全体図（1：300）

### 3) 遺構と遺物

#### (1) 竪穴住居址

##### ① SB01（挿図6、第1・2・7図、図版1・15）

**遺構** AO5を中心にして検出し、南大島川が開析した崖に1/3程切られる。規模は4.5mのほぼ円形で、主軸方向は不明である。壁高は50～10cmで、やや緩い傾斜で掘り込まれている。覆土は黒褐色土・暗褐色土・褐色土が比較的明瞭に堆積し、覆土全体に炭が少量混入する。南・西壁下は約80cmの幅で段がついており、中央部からは20cm程高くなっていた。床面は凹凸があるが堅く良好で、南側壁近くには大きな石が露出している。支柱穴は5本検出したが、切られた部分にもう2本あると考えられる。炉址は床中央部2箇所を床面をわずかに掘り窪めただけの地床炉で、焼土が認められた。

**遺物** 土器・石器があり、出土量は多くはないがまとまった好資料である。1-4は炉址南側の床面上から小片のブロックで出土した。1-28は床面から25cmを測るP3の中から出土した。半裁竹管による集合沈線文が施文される個体が多く、縄文が施文されるものもある。石器は打製石斧（2-1）・打製石鏃未成品（7-1）があり、黒曜石の剝片が多量に出土している。

時期は出土遺物から縄文時代中期初頭である。

#### (2) その他の遺構

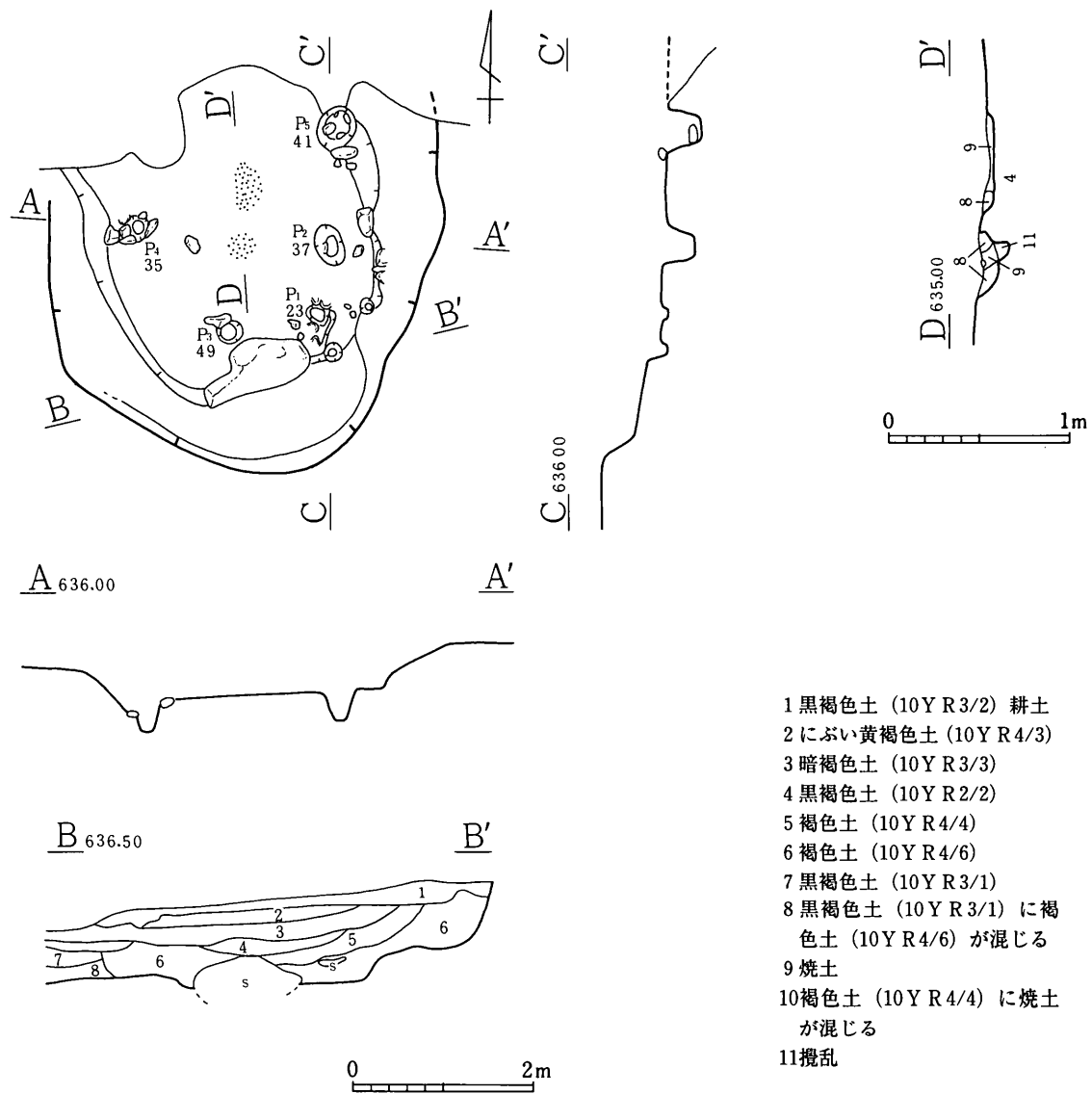
##### ① SK01（挿図7、第2図、図版2）

**遺構** SB01の南西側AJ49・50で検出した。平面形は楕円形であるが、検出時と掘り上げの形がやや異なる。規模は190×110cmを測り、長軸方向はN70°Wを測る。覆土は2層で、深さは35cmであった。

**遺物** 縄文時代中期初頭に位置づく深鉢片2点（2-4・5）がある。他に、縄文土器の小片が2点ある。

##### ② SK02（挿図7、第2図、図版2）

**遺構** SB01の西側で検出し、南側が用地外にかかる。丸みを帯びた長方形を呈し、136cmを測る。



挿図6 OOK SB01

壁の立ち上がりは比較的緩く、深さは25cmであった。

遺物 縄文時代中期初頭に位置づく深鉢片1点(2-6)・黒曜石剥片2点がある。

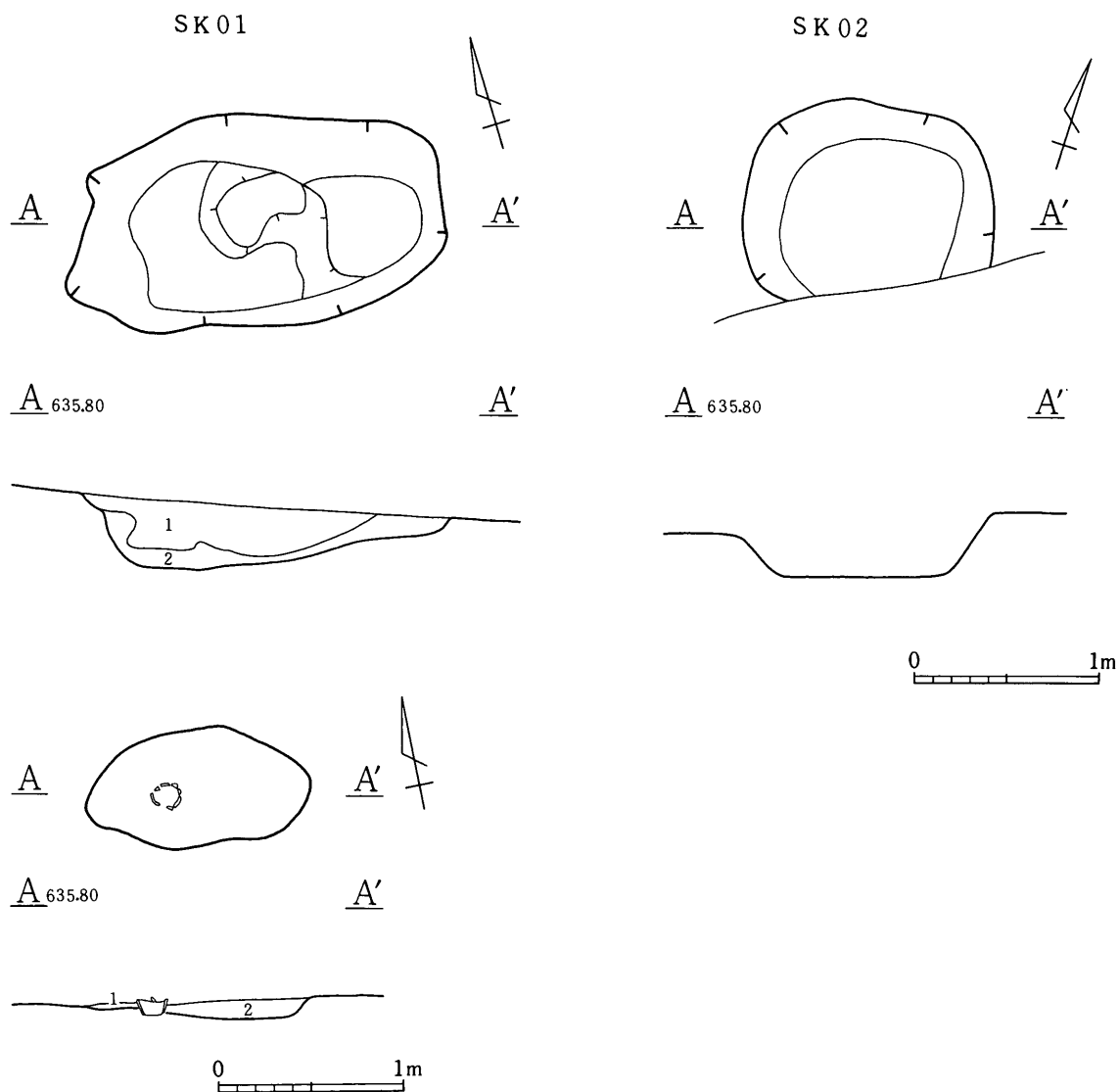
③ SX01 (挿図8、第2図、図版3・15)

遺構 SB01の南西側AL2で検出した。3層の中に胴下半部から底部が残る土器を埋設した138×82mの掘り方が確認された。掘り方は浅く10cm程を測り、断ち割り調査等の調査途中で分からなくなった。

遺物 縄文と竹管文が施文された深鉢(2-2)と集合沈線文の深鉢片(2-3)がある。

土坑・埋設土器はいずれも縄文時代中期初頭に位置づけられ、竪穴住居址と密接な関連をもつと考えられる。

その他には穴があり、挿図9で示した。個々の説明は省略するが、土坑との厳密な区別はできていない。いずれも遺物の出土はない。



1 黒褐色土 (10YR3/1)  
 2 にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/4) に黒褐色土 (10YR3/1) が混じる

挿図7 OOK SK01・SK02・SX01

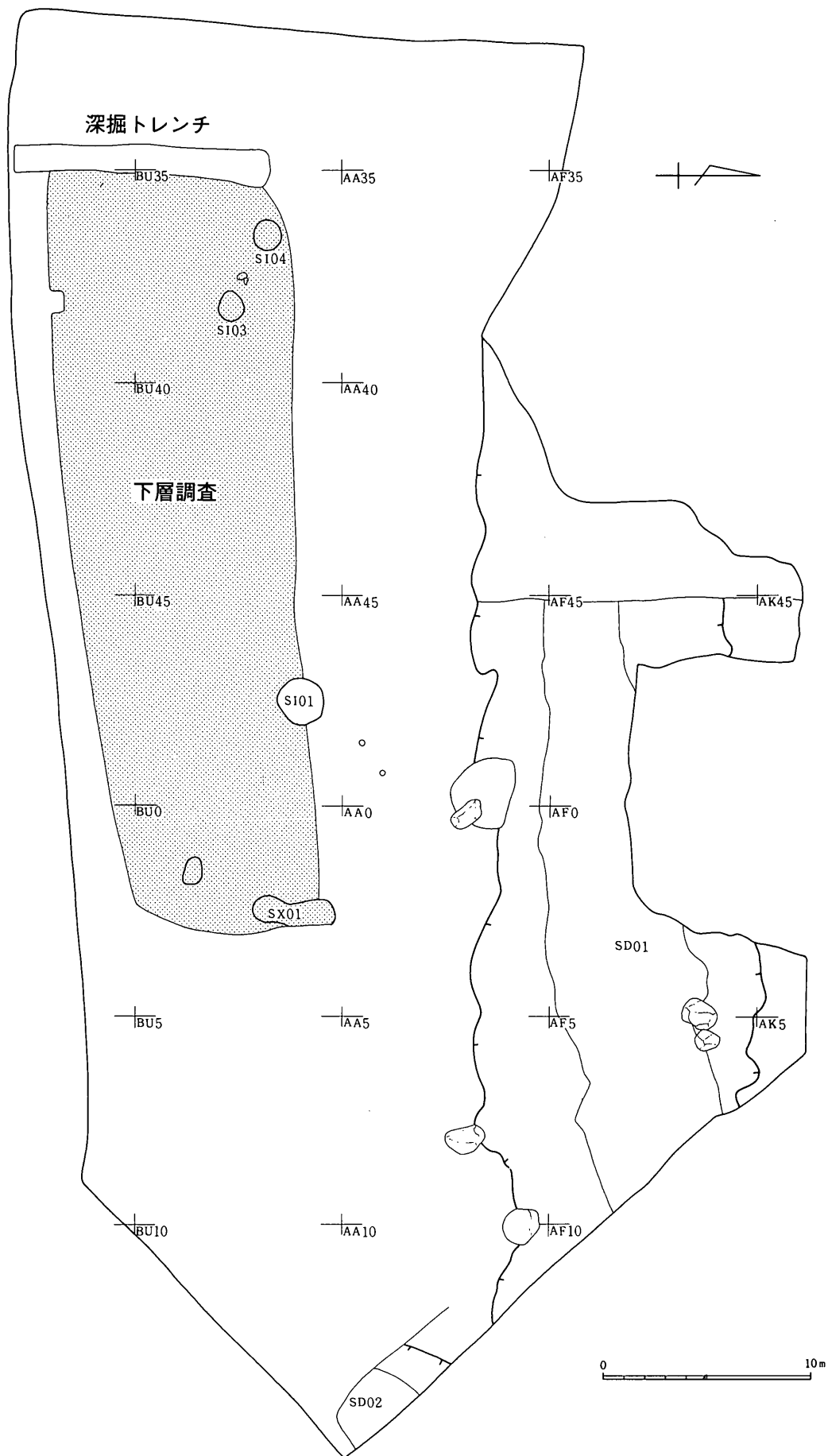
### (3) 遺構外出土遺物

遺構に直接結びつかない遺物は、第2・3図でグリットの単位で示した。2-7~9がAK2、2-10~15がAL2、2-16~21がAL3、2-22がAM1、2-23~25がAM3、2-26・27がAM3、2-28がAM5、2-29がAN3、2-30がAN4、2-31~33がAM5、2-34~39がAN・O4、3-1・2がAN・O6、3-3~7がAO4である。

ほとんどが中期初頭の深鉢片であるが、2-30は細久保式に位置づく押型文土器である。また、AN・Oのグリットから出土した遺物はSB01の上層であり、SB01に付属する可能性が高い。



插图8 OOK 穴



挿図9 大井遺跡遺構全体図 (1 : 300)

## 2. 大井遺跡

### 1) 調査の方法と概要

調査対象地は遺跡中央部の大半を占めた。試掘調査によって遺構検出面が深いことが確認されたので、廃土の処理を効率的に行うよう心がけた。

測量用の基準杭設置は、飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図に基づいて、(株)ジャステックに委託して実施した。なお、基準メッシュ図の区画については『三尋石遺跡 三尋石(Ⅱ)遺跡』(飯田市教育委員会1996)に詳しく記述されているので、そちらを参照していただきたい。本調査地の区画は挿図3で示したようにLC65 16-32・16-40・17-25・17-33である。

今次調査で検出された遺構は以下のとおりである。

集石炉……………3基  
溝 址……………2本  
土 坑……………1基  
穴・その他……………6

### 2) 基本層序

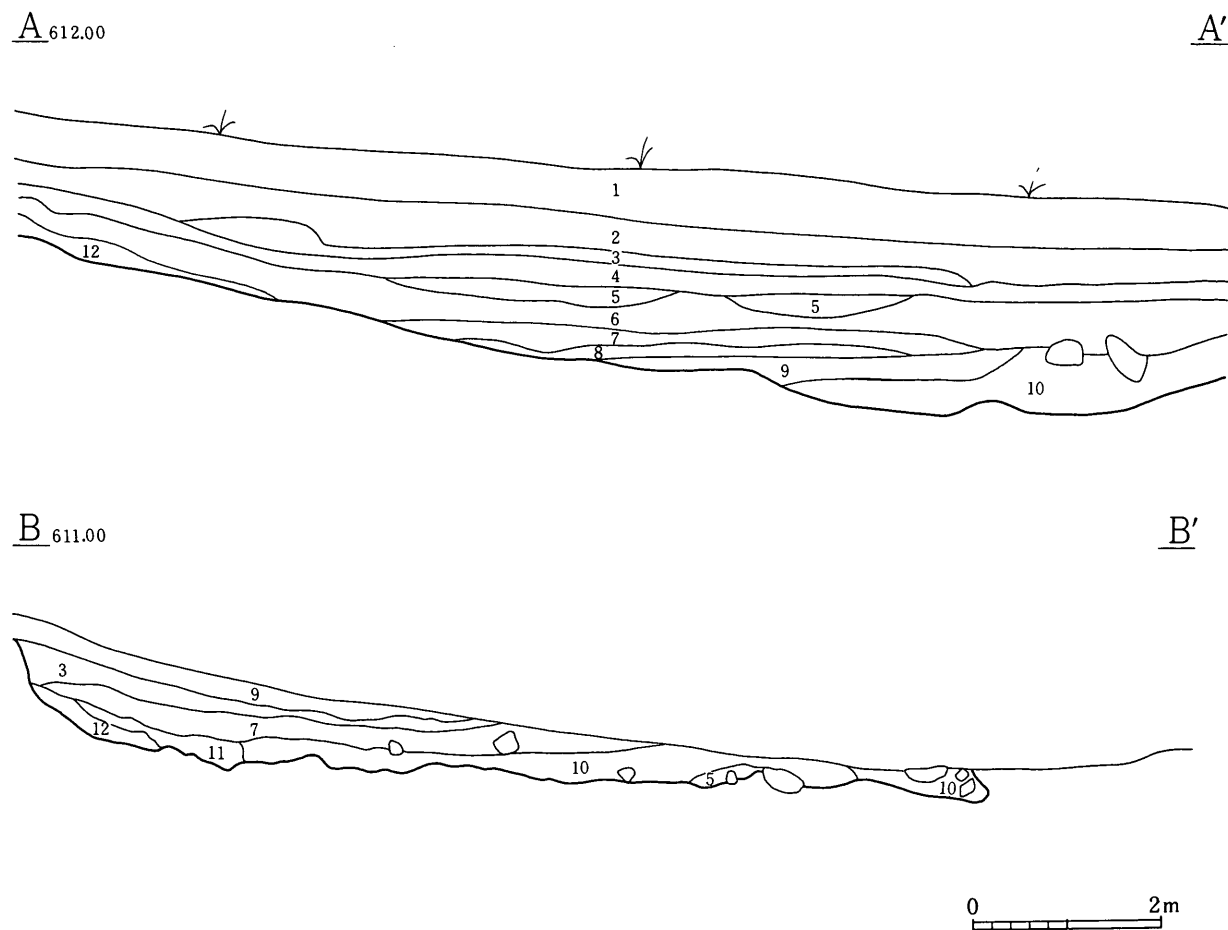
調査区西側の西に面する壁面と深掘トレンチの層序を挿図10で示した。上段が壁面、下段がトレンチの土層となる。示した場所がわずかに場所が異なっているが、基盤まで連続的に把握できたといえる。

- 1層：黒褐色砂質土 (7.5Y R2/2)、耕土
- 2層：黒褐色砂質土 (7.5Y R3/2)
- 3層：褐色砂質土 (7.5Y R4/6)
- 4層：黒色土 (7.5Y R7/1)
- 5層：暗褐色砂土 (7.5Y R3/3)
- 6層：黒褐色土 (7.5Y R2/2)
- 7層：黒褐色土 (7.5Y R3/2)
- 8層：黒色土 (7.5Y R2/1)
- 9層：明褐色砂質土 (7.5Y R5/8)
- 10層：黒褐色砂質土 (7.5Y R2/3)
- 11層：黒褐色砂質土 (7.5Y R2/3) に明褐色砂質土 (7.5Y R5/8) が混じる
- 12層：褐色砂質土 (7.5Y R4/6) に黒褐色砂質土 (7.5Y R2/3) が混じる

南大島川の押し出しによる強い影響があり、土層全体が砂質を帯びていて大小様々な石を包含していた。基盤は12層下の黄橙色砂土(7.5Y R7/8)である。

崖に近い南側10m強の幅で9層が広がり比較的安定していたと考えられる。基盤ではないが当初の遺構検出面とした。グリットのAAライン位より北側ではこの層はみられなくなり、当初から基盤が遺構検出面となった。グリット35ラインの西側で深掘調査を実施し、9層下にも包含層がみられることが

予想されたため、一部で下層調査を実施した。



挿図10 大井遺跡基本土層図

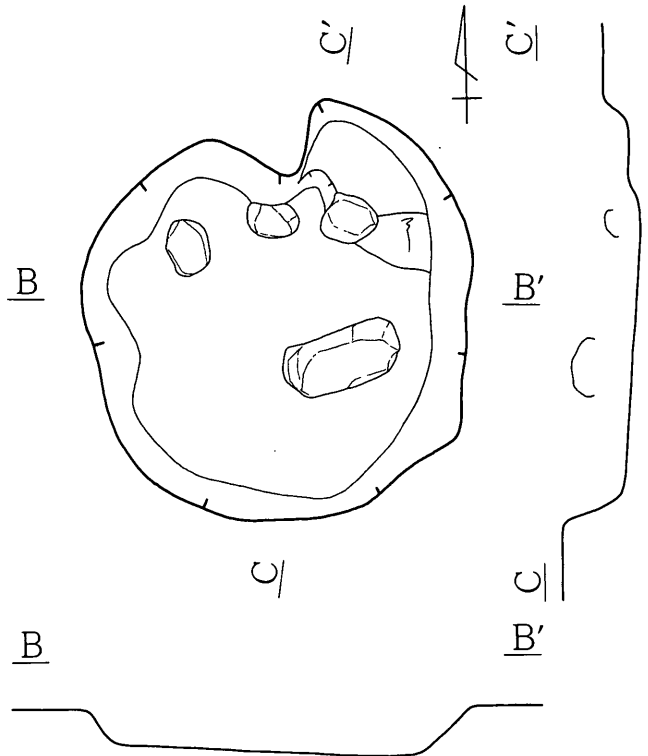
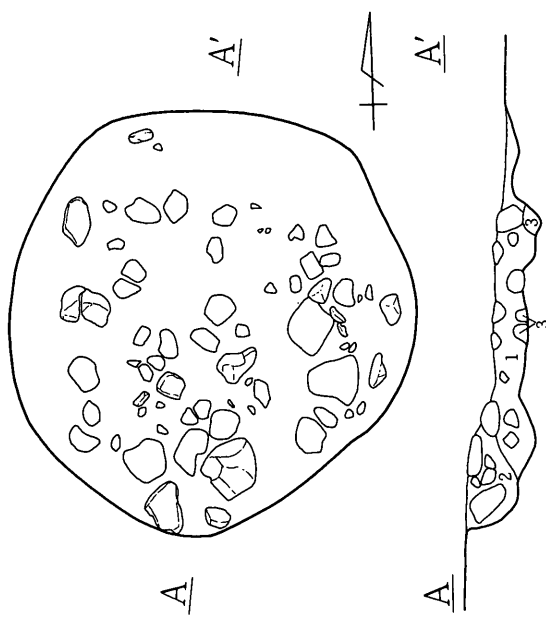
### 3) 遺構と遺物

#### (1) 集石炉

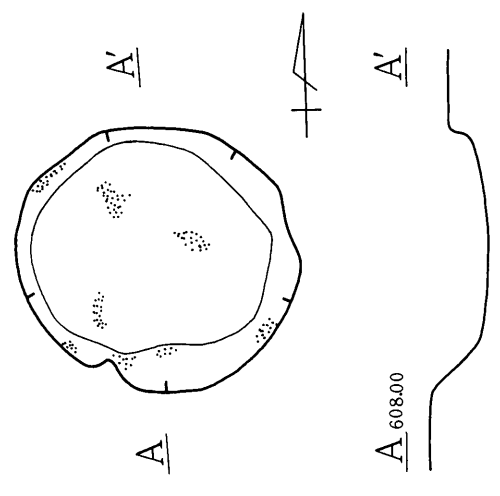
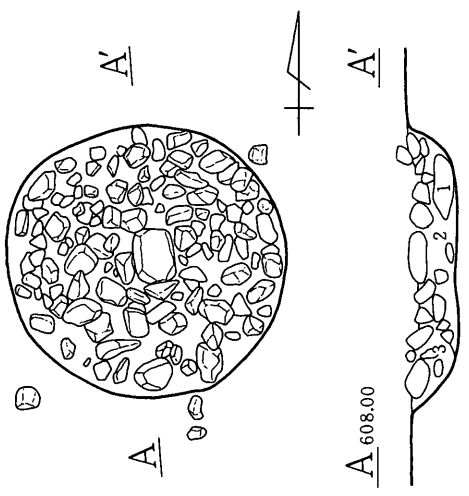
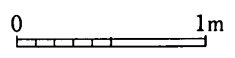
##### ① S101 (挿図11、第5図、図版6)

**遺構** 調査区の中央部B X47・B Y47で検出した。直径2.2mの円形を呈し、その中に30～5cmの石が炭とともに入れられていた。断ち割り調査の観察では、石と炭は底まで入っており、炭は細かく周囲の土と混じていた。掘り方の深さは20cmを測り、浅い逆台形の断面形をなす。焼土はみられなかった。

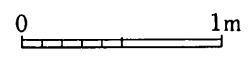
**遺物** 浅い条痕が施される縄文時代晩期から弥生時代前期の深鉢片(5-18)がある。



- 1 炭に少量の暗褐色砂質土 (10Y R3/3) が混じる
- 2 暗褐色砂質土 (10Y R3/3) に炭が混じる
- 3 炭にふい褐色砂質土 (10Y R5/4) が混じる



- 1 炭
- 2 暗褐色砂質土 (10Y R3/3) に多量の炭が混じる
- 3 暗褐色砂質土 (10Y R2/3) に少量の炭が混じる



挿図11 O O I S I 0 1 ・ S I 0 2



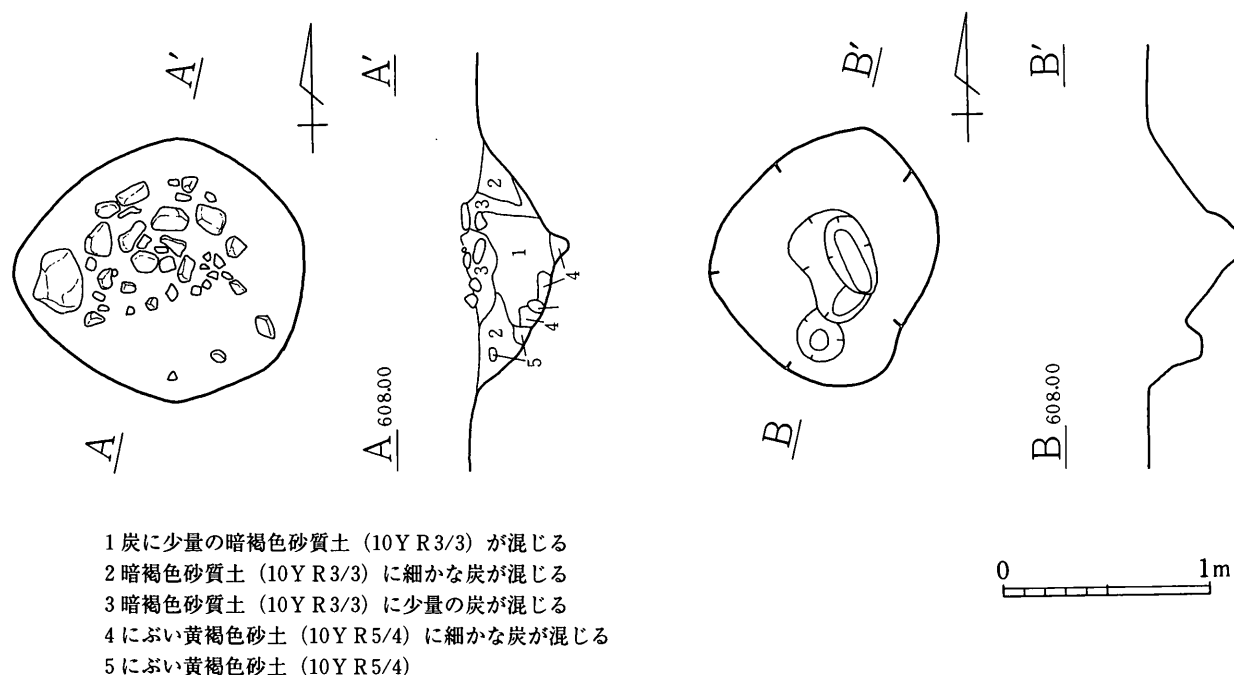
② S I 0 2 (挿図11、図版7)

**遺構** 調査区の西部BW36・BX36で検出した。直径1.4mの円形を呈し、25～5cmの石が多量に入られていた。断ち割り調査の観察では、石は底まで入っており、その間に炭と少量の土が混じていた。炭は東西方向入っているのが繊維の方向で確認できた。掘り方の深さは26cmを測り、浅い逆台形の断面形をなす。底や壁面に焼土が認められた。

遺物の出土はない。

③ S I 0 3 (挿図12、図版8)

**遺構** 調査区の西部BW37・BW38で検出した。1.4×1.2m楕円形を呈し、30～5cmの石が中央部を主体に入れられていた。断ち割り調査の観察では、石は上層のみで、その下には細かな炭が大量に入っていた。掘り方の深さは40cmを測り、椀状の断面形をなす。焼土はみられなかった。



挿図12 O O I S I 0 3

(2) 溝 址

① S D 0 1 (挿図13・14、第3・4・5・7図、図版9・16)

**遺構** 調査区北端部AD40～AN8で検出した。調査延長は46mで、西・東側に延長する。グリット45ラインの西側は平面形の確認のみで、掘り下げでの調査は実施しなかった。また、北側の一部は廃土の山の下となって調査できなかった。覆土は砂土・砂質土を主体として、大量に大小の石を包含していた。石は大きなもので2mを越し、上層から下層にまんべんなく含まれていた。方向はN88°Eを示し、幅12.2～11.6m・深さ162～122cmを測る。断面形は基本的には浅い逆台形をなし、水流によって抉られた箇所が認められる。



挿図13 OOI SD01

遺物 出土量は比較的多い。縄文土器は中期後葉の深鉢片（3-12~23・4-1~27）を主体としており、溝址中央部AH5付近のある程度まとまった範囲中にみられた。層位もほぼ同一で中層の砂の中からであった。管玉（7-9・10）は、AH8の下層の砂の中から出土した。他に、耳栓（7-8）・縄文時代晩期土器片（4-28）・打製石斧（5-1~10）・横刃型石器（5-11・12）・礫器（5-13）がある。

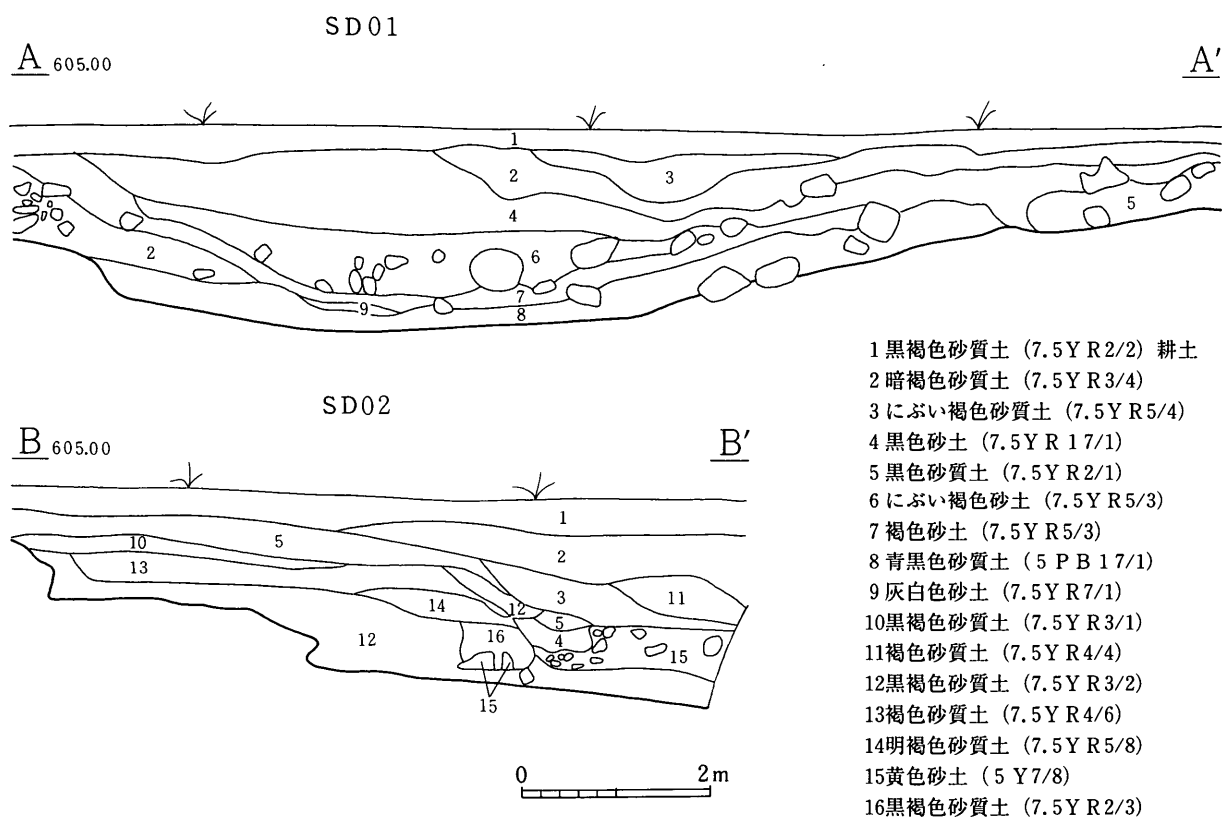
遺構の状況から南大島川の旧河道である。

出土遺物に時期差があるため時間的に位置づけることは不可能である。

② SD02（挿図15、第5図、図版10）

遺構 調査区南東端部の先行トレンチ調査で確認し、幅2m強の掘り下げと土層の記録調査のみを実施した。また、先行トレンチ南西側の上層の一部も掘り下げた。規模等は不明である。層位は自然埋没的な堆積を示しておらず、断層による可能性がある。

遺物 上層からわずかに遺物が出土しているが、直接関連する遺物ではない。縄文時代中期初頭土器片（5-14）・縄文時代晩期土器片（5-15）・打製石斧（5-16・17）・打製石鏃（7-6）がある。



挿図14 OOI SD01・SD02土層図

(3) その他の遺構

① SK01 (挿図15、図版10)

遺構 調査区中央部南東側BV1の上層検出面で調査した。1.7×0.9mの楕円形を呈し、深さは35cmを測る。断面形は逆台形をなす。

遺物の出土はない。

② SX01 (挿図15、図版10)

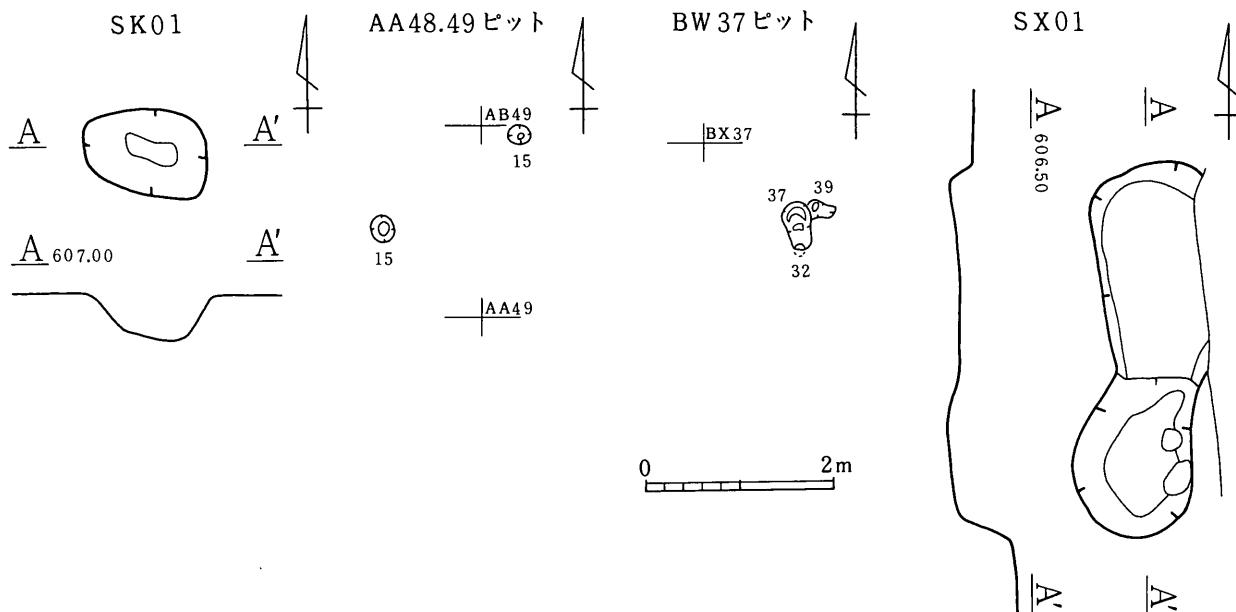
遺構 調査区中央部東側BV1・BW1の下層調査検出面で調査した。東側に未調査部があるが下層調査は実施しなかった。長軸方向の長さは4.0mを測り、長方形と楕円形の2つの遺構が重複しているような形態を示す。断面形は基本的に逆台形をなす。

遺物の出土はない。

人為的なものかの判断ができず、性格は不明である。

③ 穴 (挿図15、第6図)

穴はAA48・AA49・BW36にそれぞれ1個ずつある。なかでは、AA48の穴には炭とともに縄文時代後期後半に位置づく羽状沈線文土器(6-9~11)が認められた。



挿図15 OOI SK01・SX01・穴

#### ④ 下層調査 (第7図・図版11)

2)でも述べたように、崖に近い調査区南側の部分に台地上からの押し出しによるかぶりが認められ、上層・下層の2面の調査となった。下層調査の範囲はBU2からBS35の北側をおよそ12~10m幅で対象とし、353㎡を調査した。東側にも広がるがこれ以上の拡張は実施しなかった。明確な遺構は確認できず、自然の浅い窪地がみられたのみである。

出土遺物には横刃型石器(6-14・15)・敲打器(6-16~18)がある。

#### (4) 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物は極めて少ない。縄文時代前期初頭土器片(6-4)・同中期初頭土器片(6-5・6)・同中期後葉土器片(6-7~12)・弥生時代後期土器片(6-13)・打製石鏃(7-7)等がある。他に、縄文時代早期1点・同後期1点・時期不明縄文土器14点・弥生時代後期甕1点・古墳時代後期須恵器蓋坏1点・近世近代陶磁器8点のそれぞれ破片がある。

## Ⅳ ま と め

今次調査によって検出された遺構・遺物はすでに述べてきたとおりである。時間等の制約により、十分な説明や検討が加えられていないのは遺憾である。ここでは、調査によって得られた成果・問題点を遺跡毎に指摘してまとめとしたい。

### 1. 大久保遺跡

農道の路線が大久保遺跡の北端南大島川が開析した崖の肩の部分に計画された。試掘調査によって大半が遺跡範囲外と確認され、遺物が確認された北西端の一部が調査対象となった。当初は遺物の包含層的な性格を想定して調査を開始したのであるが、予想外にも縄文時代中期初頭の竪穴住居址・土坑等が検出された。

縄文時代中期初頭竪穴住居址の調査例は、近年の調査で増えてきてはいるが、まだ少ないのが現状である。そうしたなか、1軒のみではあるが該期の居住地域を知る上で貴重な資料を提供することとなった。当該地は、南大島川の崖の肩の部分に当たり、扇状地上に形成された旧河川流路と考えられる浅い窪地への西斜面に当たる。土坑1があるあたりが窪地の底となり、そこから西側は東斜面となる。遺構が確認されたのは西斜面の部分のみで、東斜面では遺物すらみられなくなる。調査した範囲が限定されるが、大規模な集落が展開するとは考えられない。集落は竪穴住居址と土坑によって構成されるが、埋設土器の位置づけは、類例が少ないだけに今後の課題である。当地方に多い縄文時代中期後葉の集落は、周辺地域の耕作者や遺物の表面採集による状況から、当該地南側の台地上に広がっていることが想定される。こうした集落立地とはやや異なった場所を占地しているといえる。

竪穴住居址は崖に一部がかかっており、全体形は把握できなかった。後の時代の浸食・崖崩れによって失われたものと考えられる。

出土遺物は縄文時代中期初頭に位置づく土器の好資料が得られた。竹管による集合沈線文が施文される個体が多く、縄文施文されるものが比較的少ない構成である。十分に整理して検討できたわけではないので、その位置づけ等の課題は残るが、未だ整備されているとはいえない当地方の縄文時代中期土器編年を考えるうえで貴重な資料になると考えられる。

### 2. 大井遺跡

大井遺跡の立地は、南大島川が木曾山脈前山の麓から流れ出す出口部分の南岸にあり、そうした立地における遺跡の状況が明らかとなった。遺構・遺物は試掘調査段階の予想より少なく、土層の深い堆積とそのなかに石特に大石が多く含むことが特徴であった。

縄文時代では集石炉3基を調査した。地形的にみると北側の傾斜が平坦になる箇所構築されている。それぞれの形態は、石の多寡や掘り方の状況で異なっていた。時期を位置づけるのは困難を伴うのであるが、S I 0 1付近で同一検出面で調査されたA A 48穴から出土した遺物が一つのヒントを与えてくれ

る。縄文時代後期後半の羽状沈線文土器であり、こうした時期に位置づく可能性を指摘しておく。いずれにせよ、居住域的な性格よりも、南側の扇状地上の居住域から石を求めてきて、臨時的な調理場としたと考えられる。

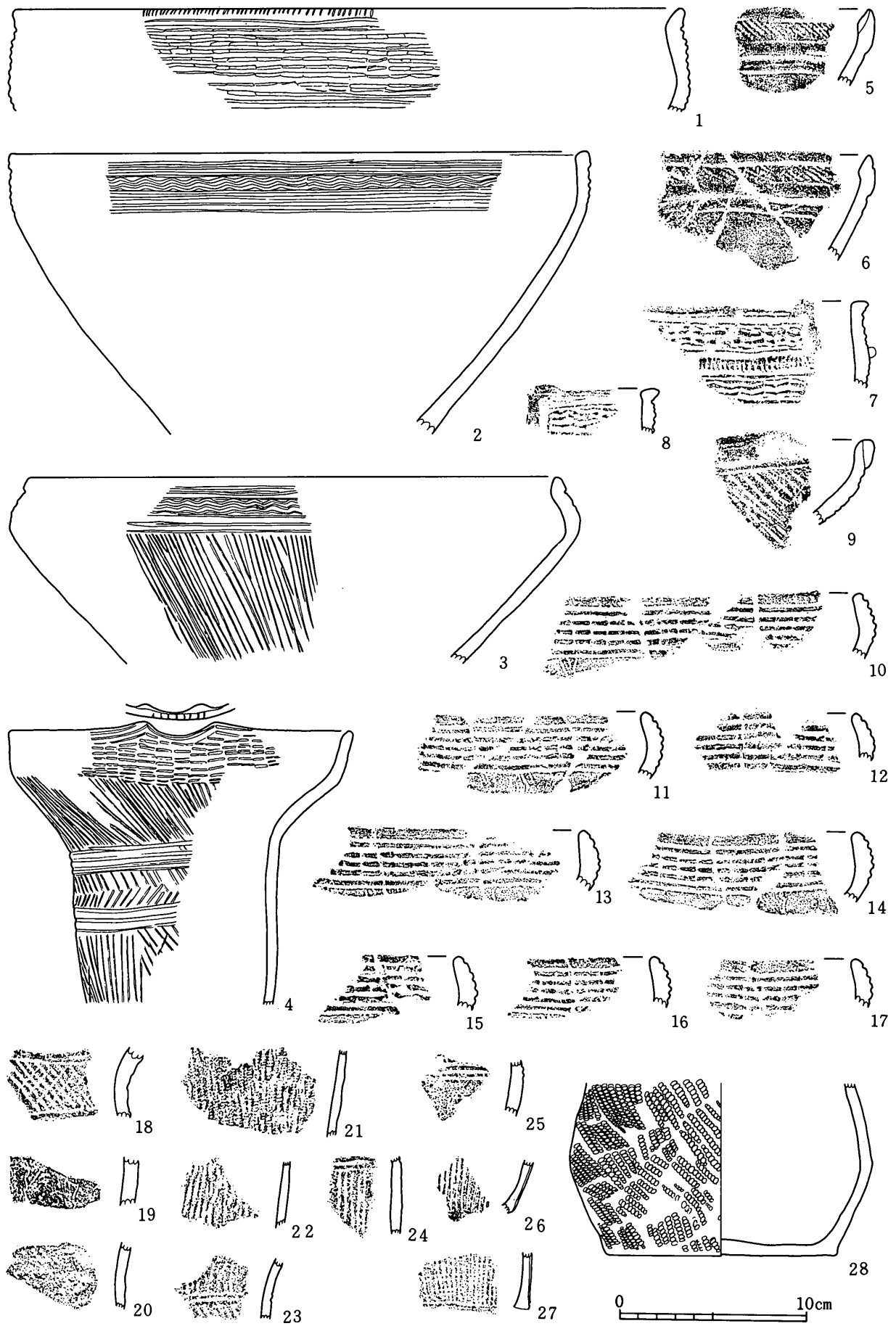
その他では南大島川の旧河道であるSD01を調査した。出土した遺物の大半が縄文時代中期後葉に位置づくのであるが、溝底から古墳時代の管玉2点が出土して時期の決定ができなくなった。管玉の出土状況から後の攪乱で混入したとは考えられず、溝址の時代は古墳時代以降ということになる。さらに、管玉の在り方にも問題を残す。周辺地域には古墳時代の遺構は少なく、どういった経過でここにあったかが現状では推測できない。

必ずしも好条件ではない場所ではあるが、その性格に規定された遺跡の在り方を知ることができた。絶えず洪水や土石流の心配がある場所だけに、居住空間としての利用はなかったといえる。今後とも、こうした箇所にも注意を払って遺跡保護を進める必要がある。

大久保遺跡・大井遺跡の調査で得られた問題点のいくつかを整理した。大久保遺跡は計画路線の大半が遺跡範囲外となり、現状で大部分が残っている。反面、大井遺跡の大半は今次調査によって記録を残して壊されることとなった。今後、残された部分の保護には十分の注意を払っていく必要があることを明記して本報告書のまとめとする。

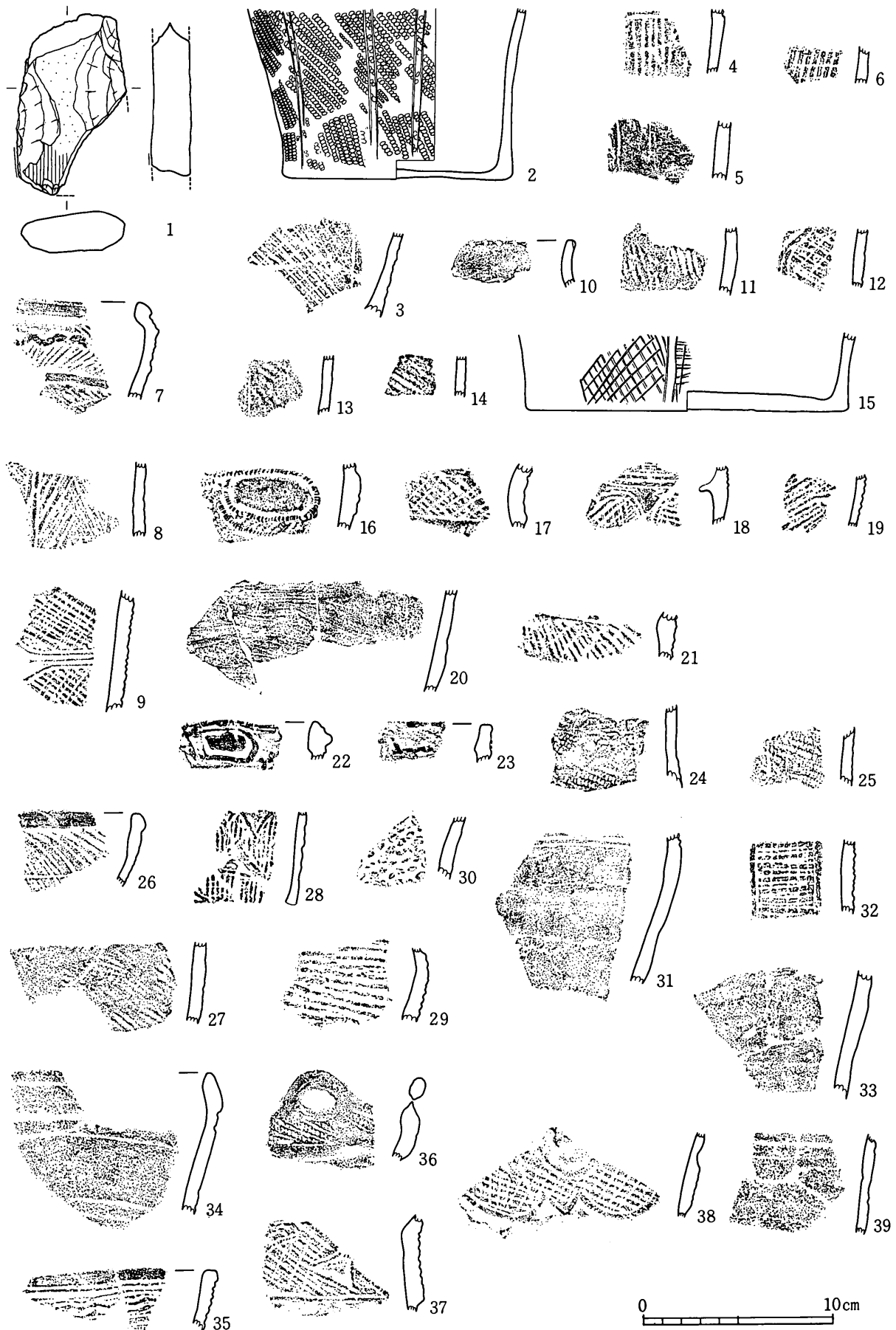
#### 引用・参考文献

- |          |        |                         |
|----------|--------|-------------------------|
| 飯田市教育委員会 | 1986   | 『恒川遺跡群』                 |
| 飯田市教育委員会 | 1988   | 『恒川遺跡 田中・倉垣外地籍』         |
| 飯田市教育委員会 | 1991 A | 『恒川遺跡群 新屋敷遺跡』           |
| 飯田市教育委員会 | 1991 B | 『恒川遺跡 田中・倉垣外地籍』         |
| 今村善興     | 1967   | 「飯田市座光寺原遺跡」『長野県考古学会誌』4号 |
| 下伊那誌編纂會  | 1991   | 『下伊那史』第一巻               |

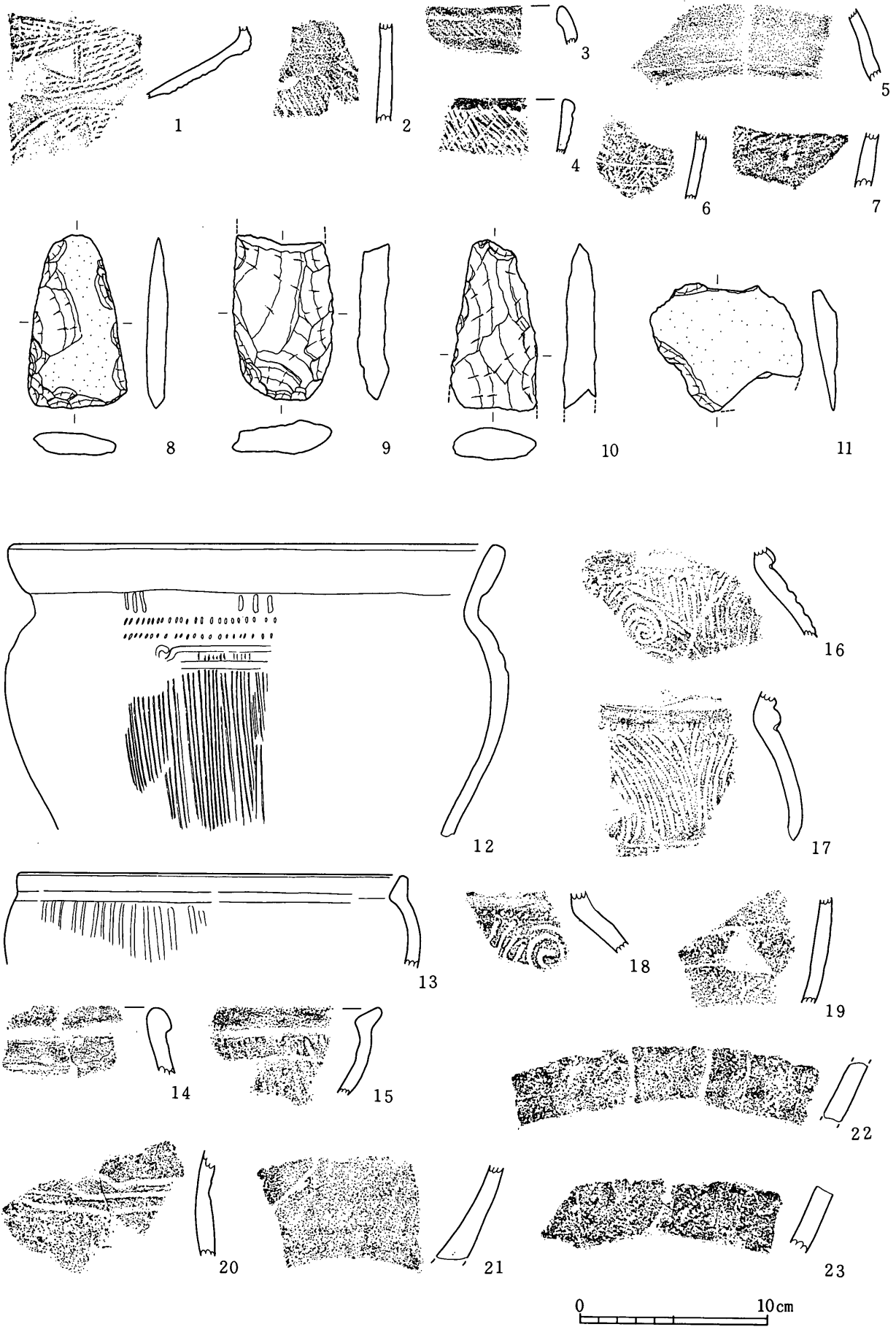


第1图 OOK SB01出土土器

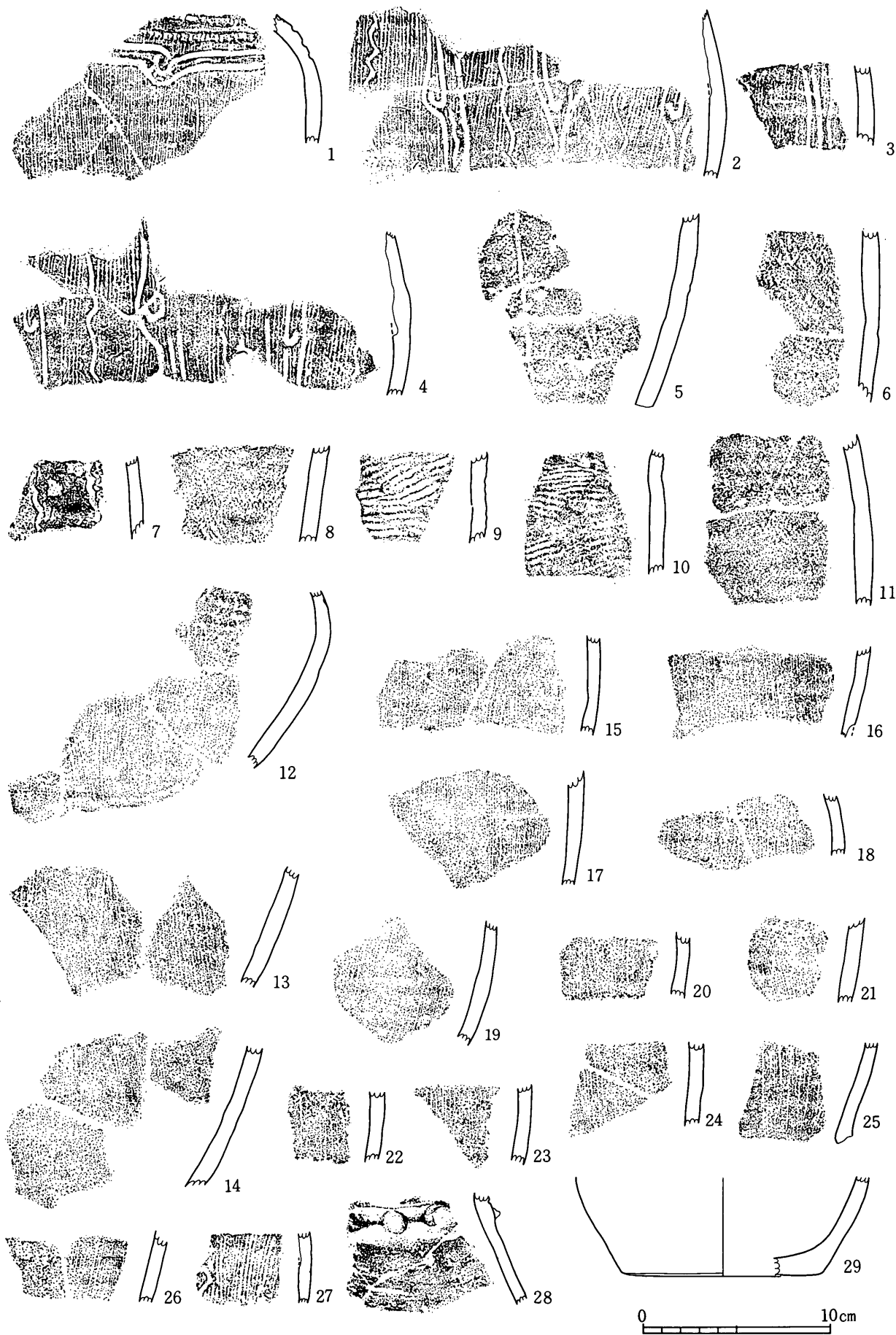




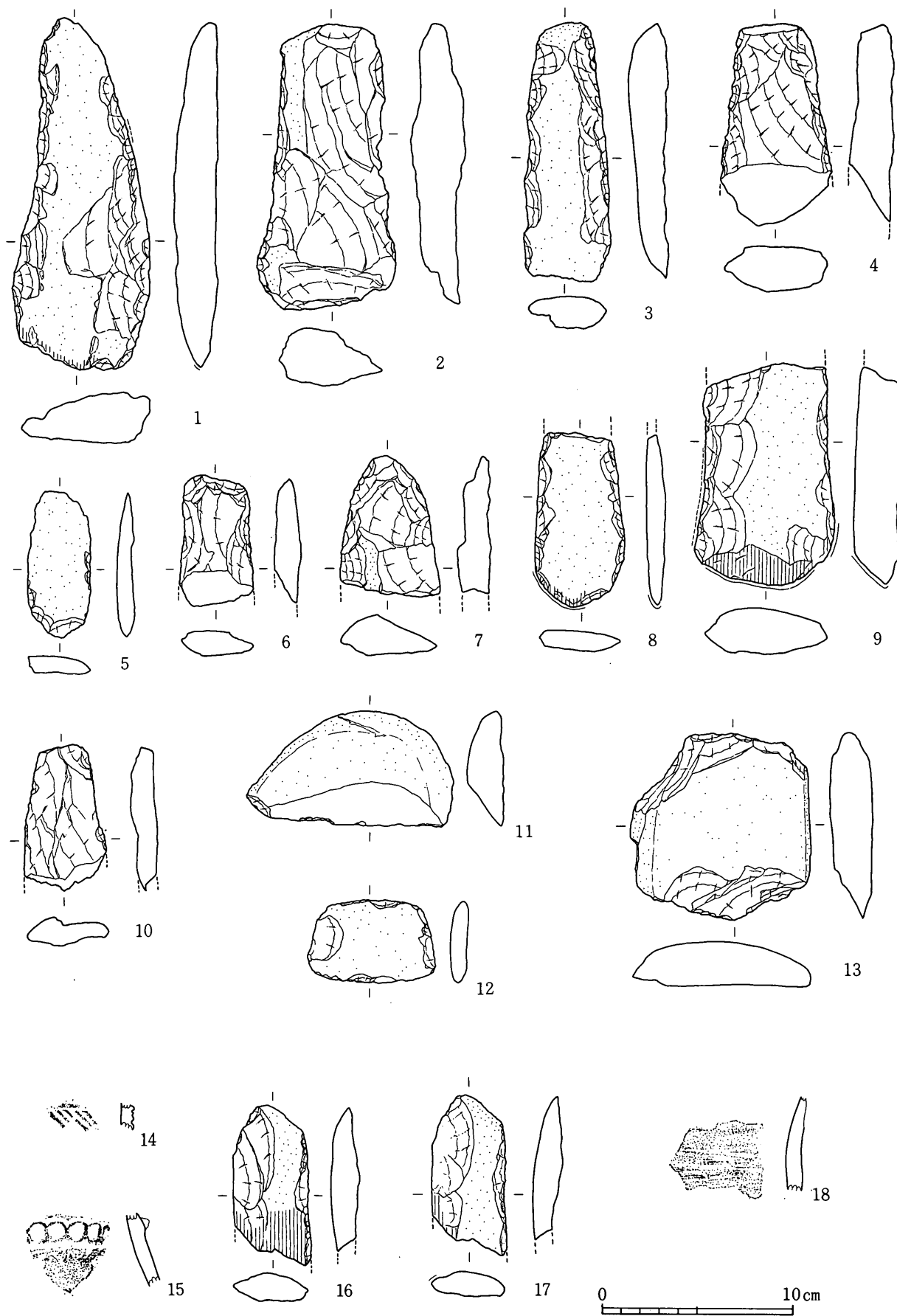
第2図 OOK SB01出土石器(1)、SX01(2・3)・SK01(4・5)  
SK02(6)・遺構外(7~36)出土土器



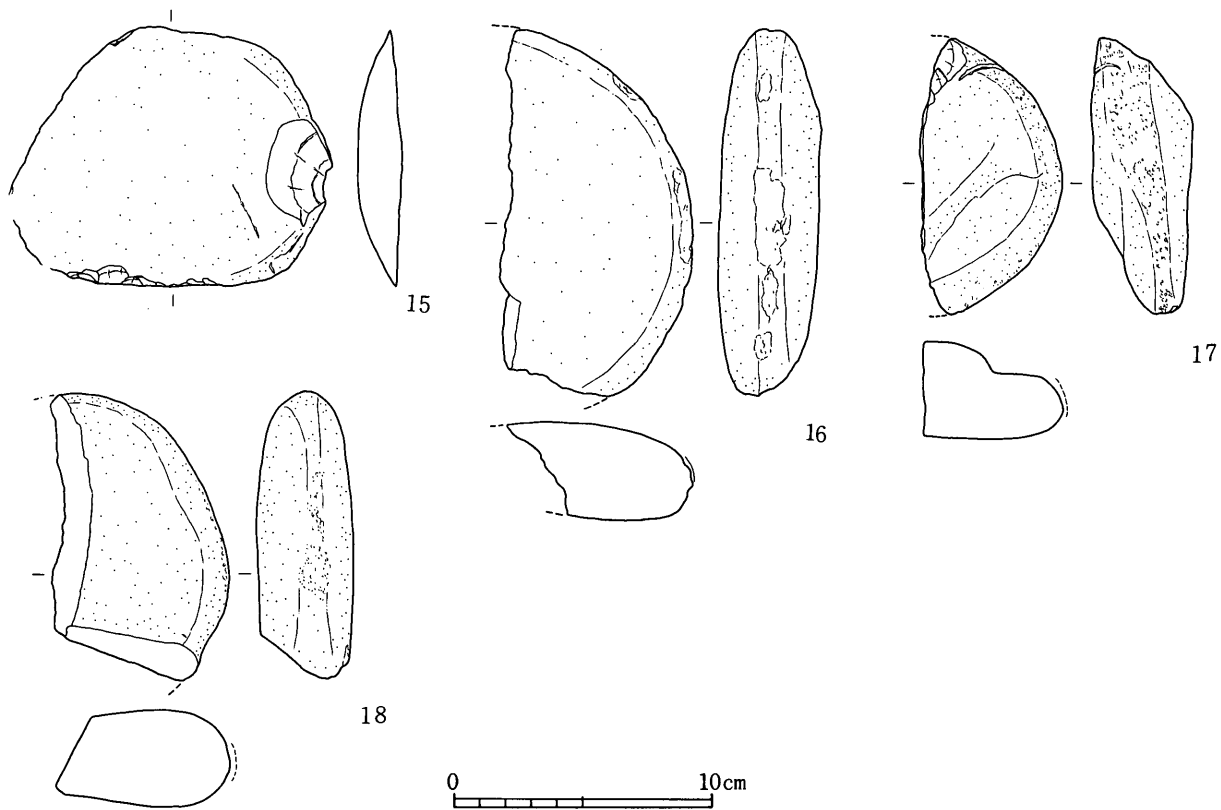
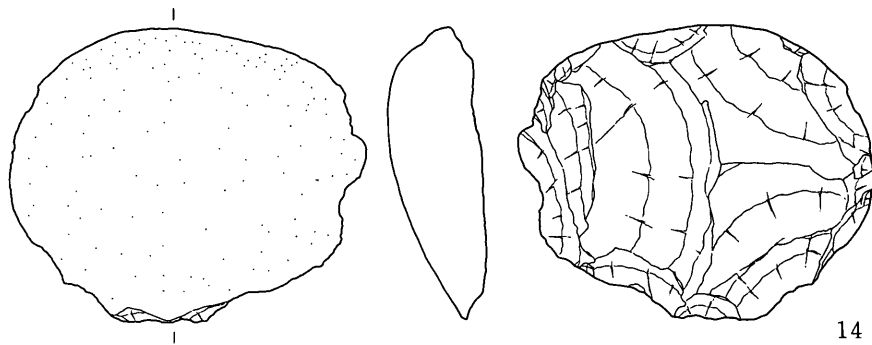
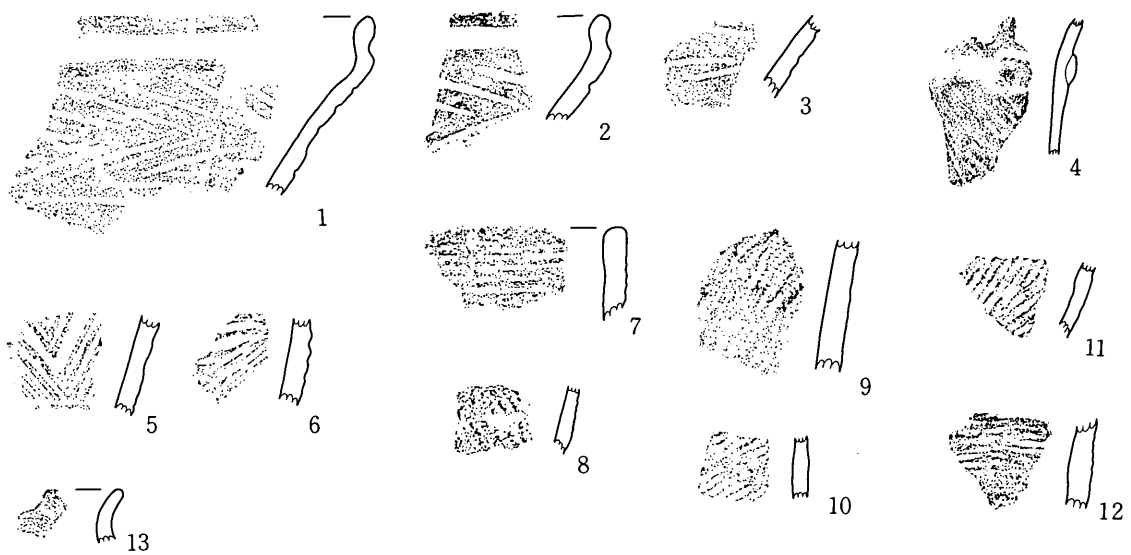
第3図 OOK 遺構外出土遺物 (1~11)、OOI SD01出土土器 (12~23)



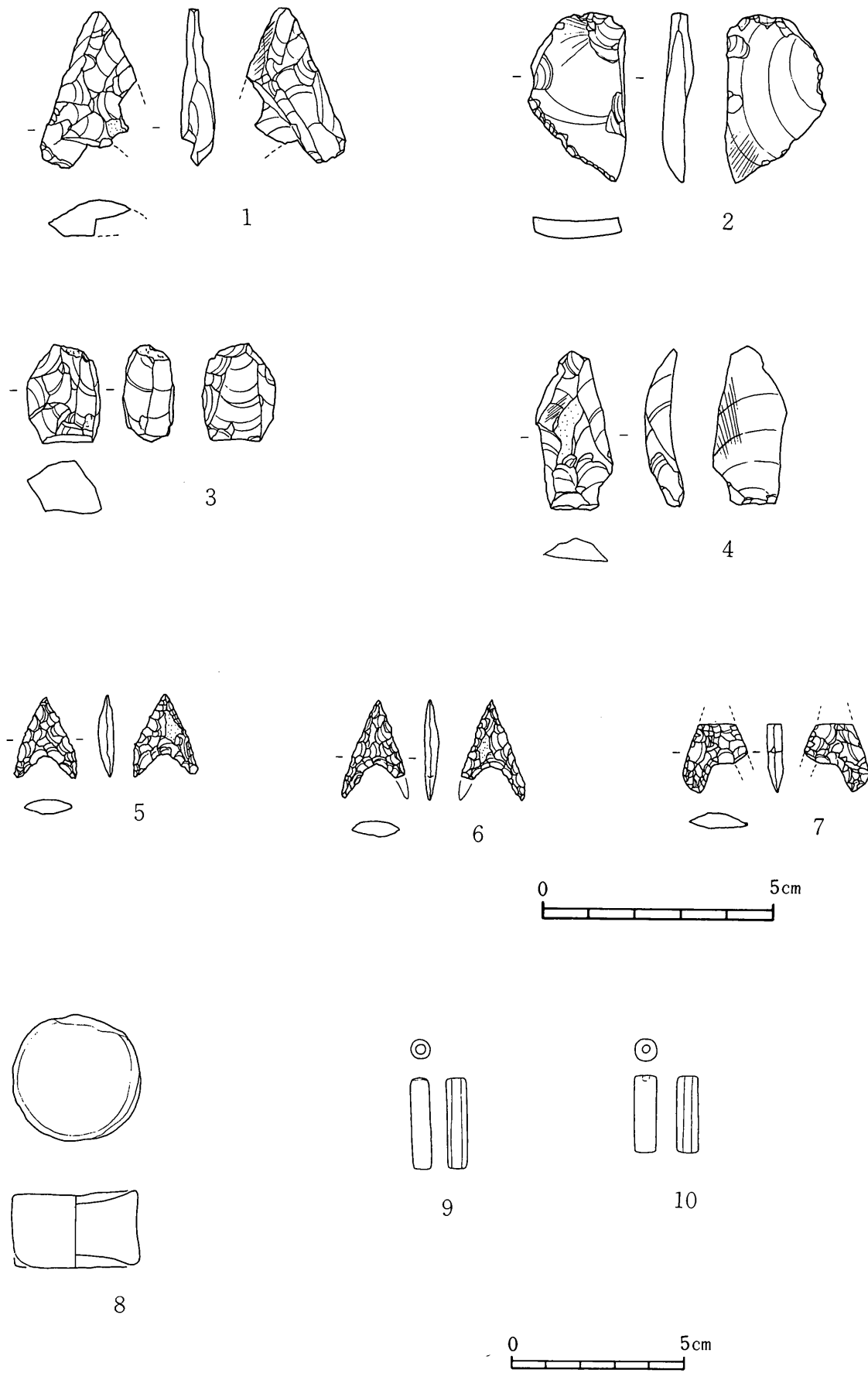
第4图 OOI SD01出土土器



第5图 O O I SD 0 1出土石器(1~13) · SD 0 2出土遺物(14~17) · S I 0 1出土土器(18)



第6図 O O I A A 48穴出土土器(1~3)・遺構外出土土器(4~12)・下層調査出土石器(14~18)



第7図 OOK SB01(1)・AL3(2)・AL4(3)・ANO4(4)出土石器  
 OOI SD01(5・8~10)・SD02上層(6)・BW9(7)出土遺物



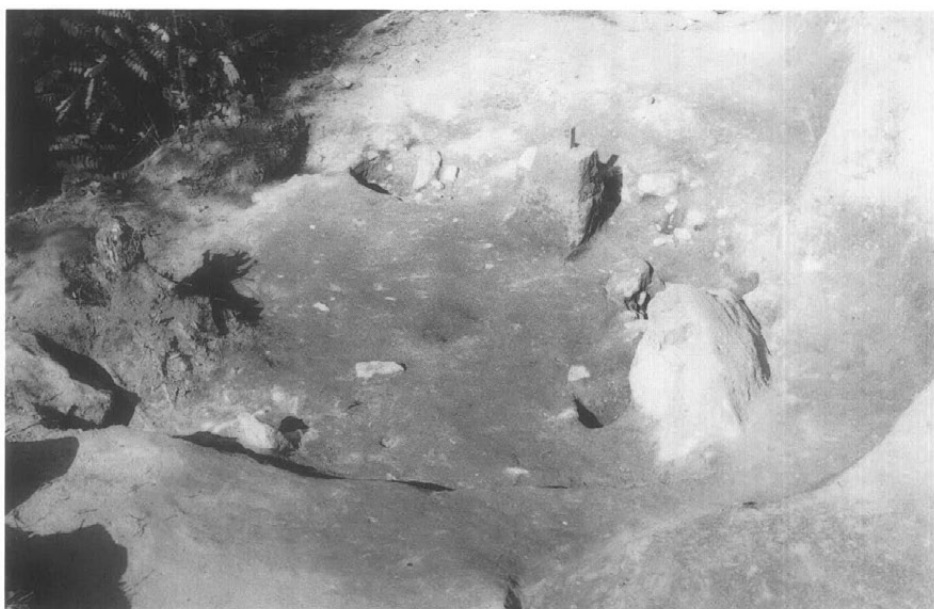
OOK SB01  
床面検出



OOK SB01  
(南東から)



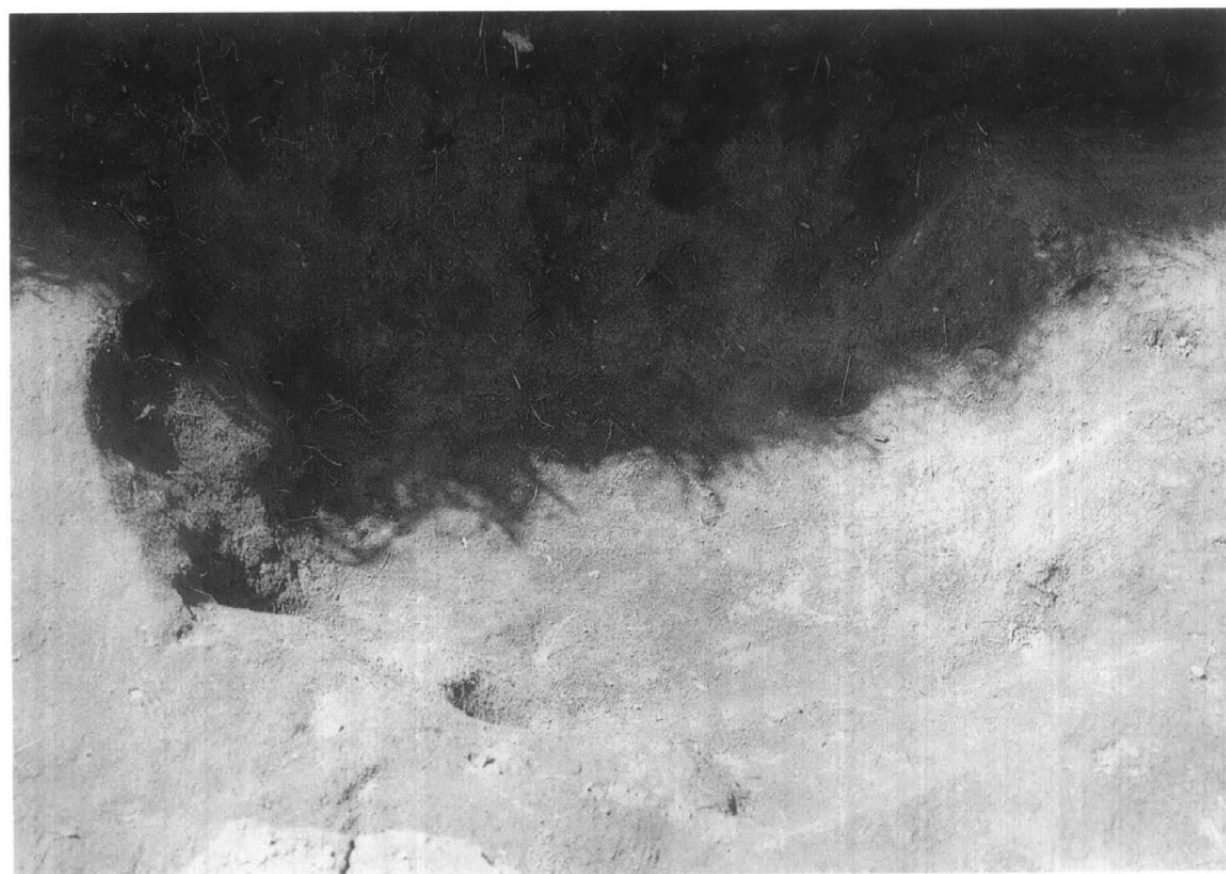
OOK SB01  
(北西から)







OOK SK 01



OOK SK 02



OOK SX01



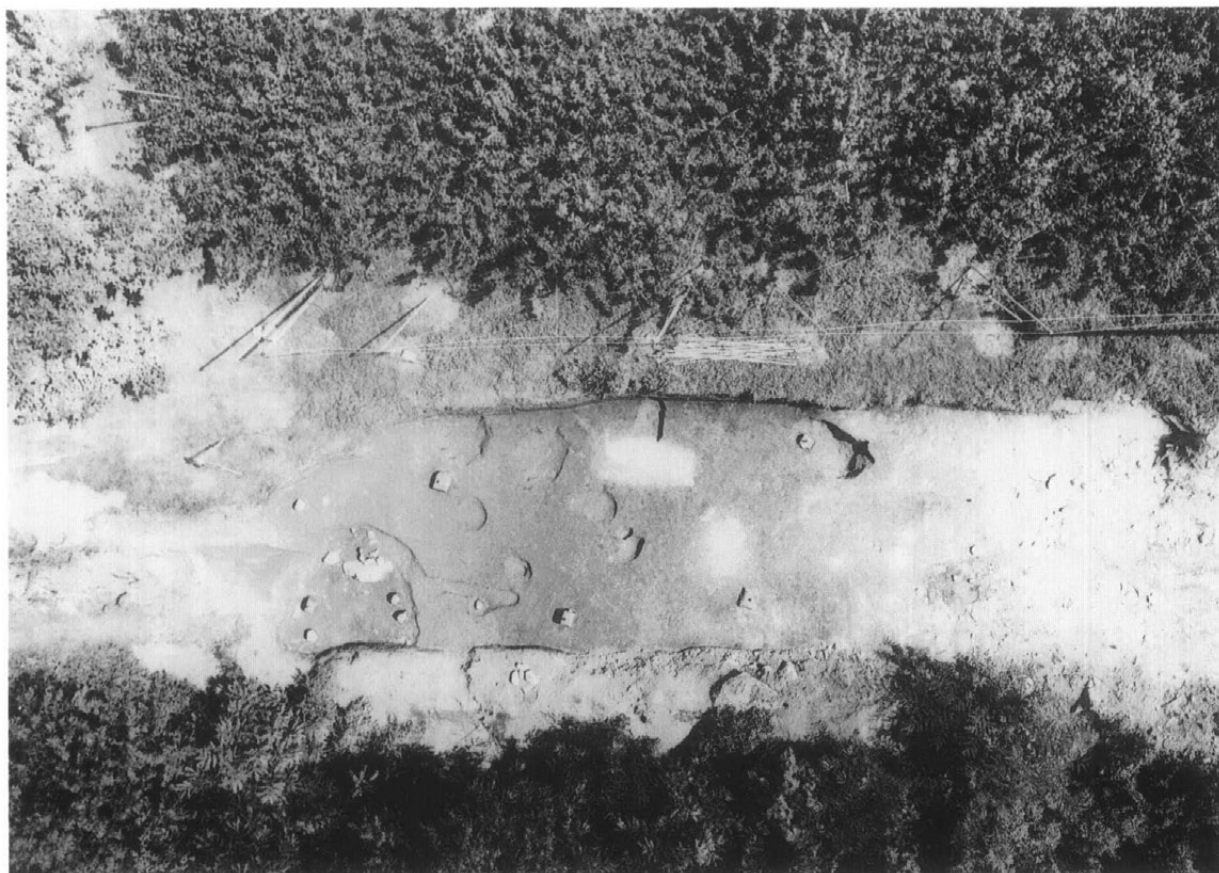
OOK SX01 断ち割り



OOK 全景 (南東から)



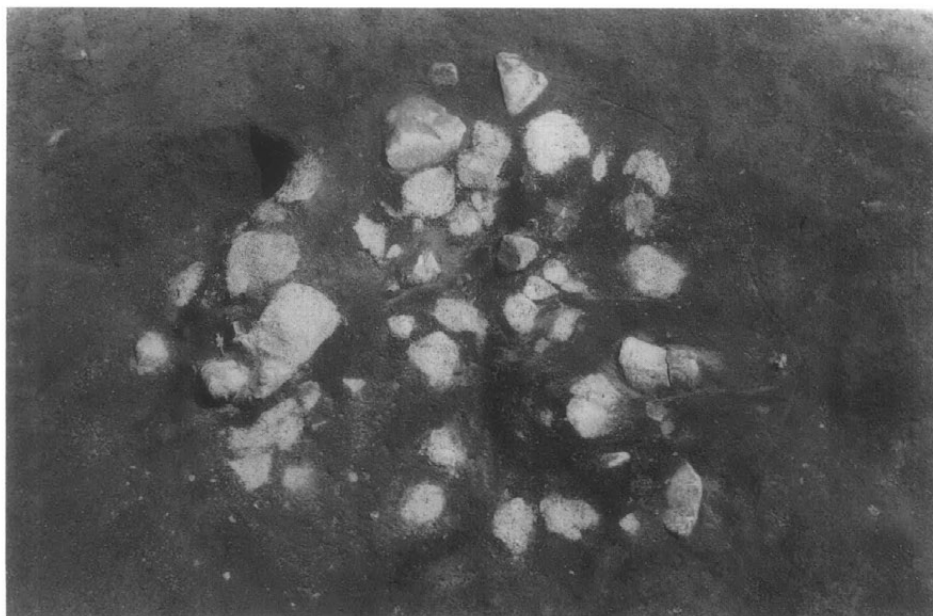
OOK 全景 (北西から)



OOK 全景 (上空から)



OOK 全景 (斜め上空 南東から)



001 S101



001 S101  
断ち割り



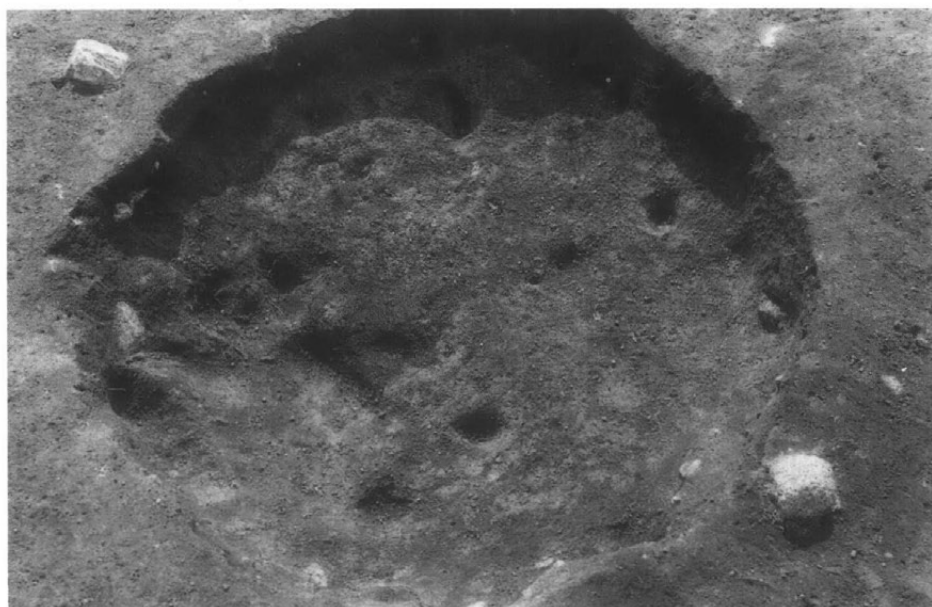
001 S101  
掘り方



OOK S102



OOK S102  
断ち割り



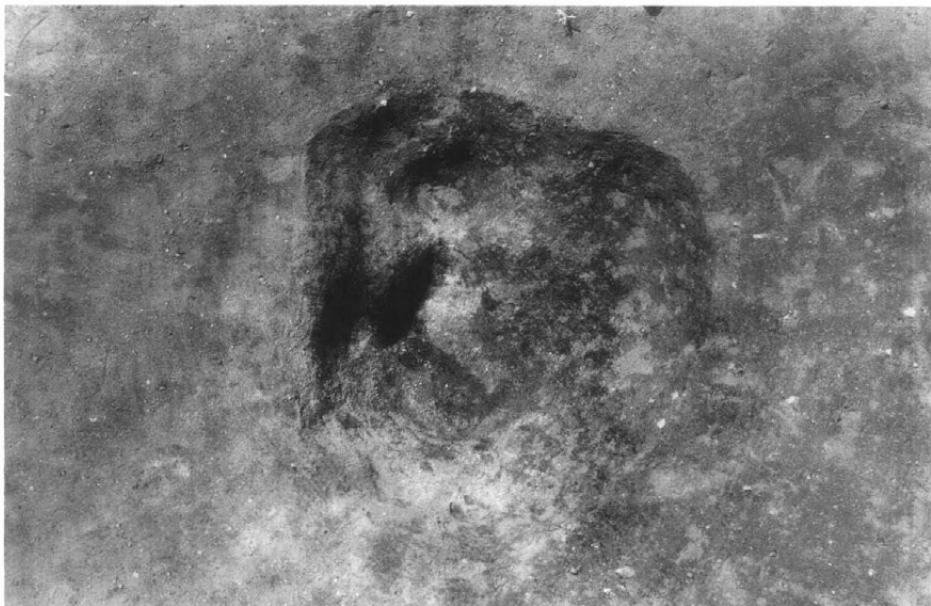
OOI S102  
掘り方



001 S103



001 S103  
断ち割り



001 S103  
掘り方

001 SD01  
(南東から)



001 SD01  
(北西から)



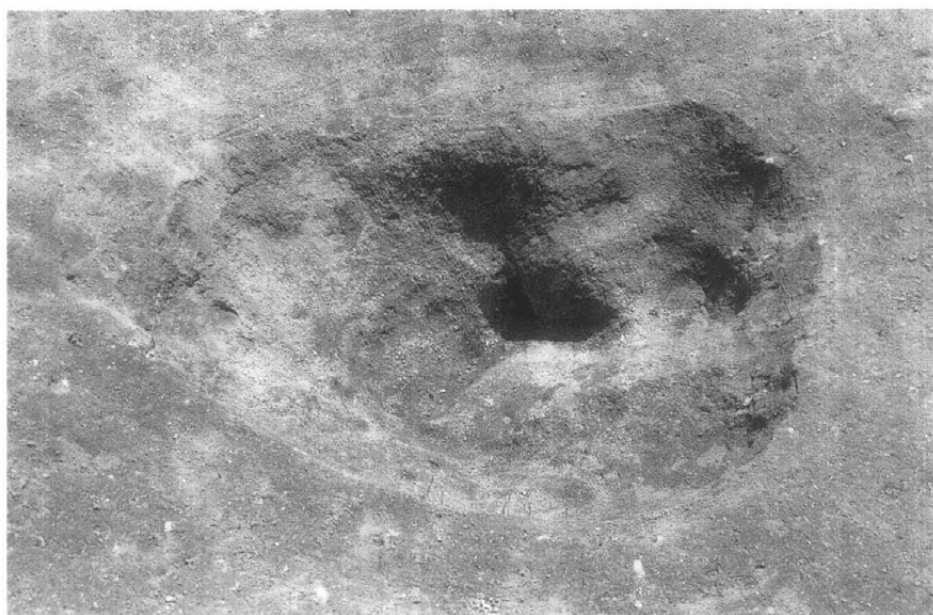
001 SD01  
耳栓出土状態



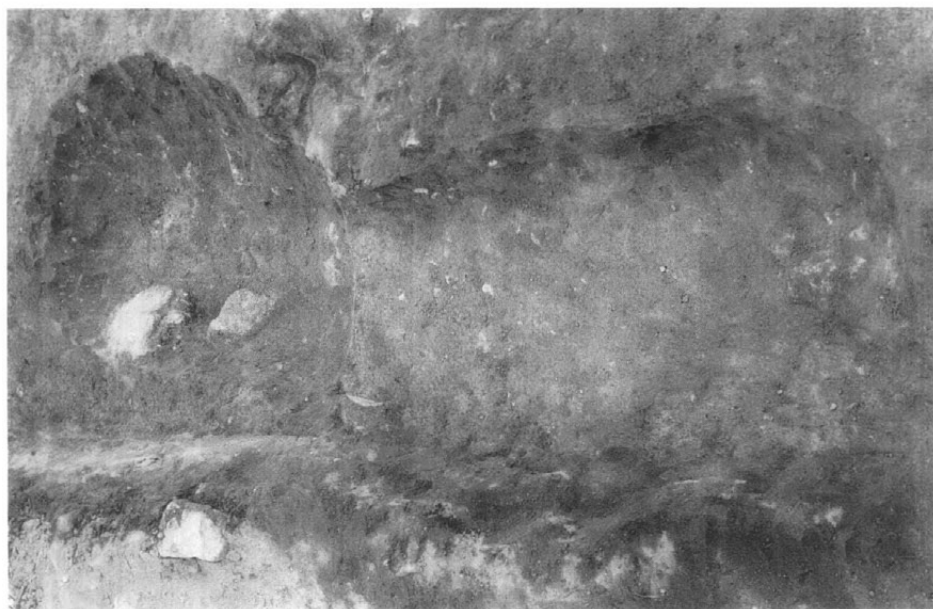




OOI SD02  
土層



OOI SK01



OOI SX01

001 下層調査全景  
(北西から)



001 全景  
(南東から)



001 全景  
(南から)





〇〇 I 全景 (西から)



〇〇 I 全景 (南から)



〇〇I 下層調査後 全景 (南から)



〇〇I 下層調査後 全景 (西から)



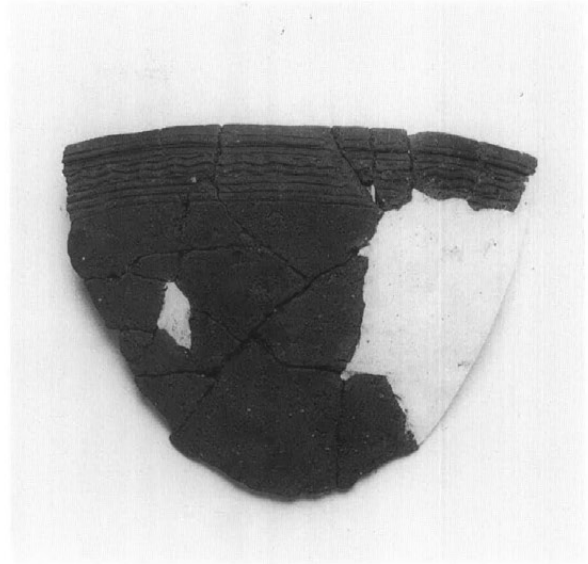
〇〇I 全景（上空から）



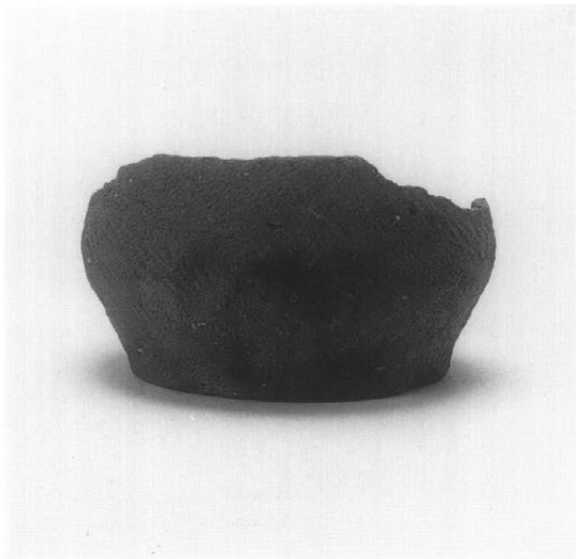
〇〇I 全景（斜め上空 北東から）



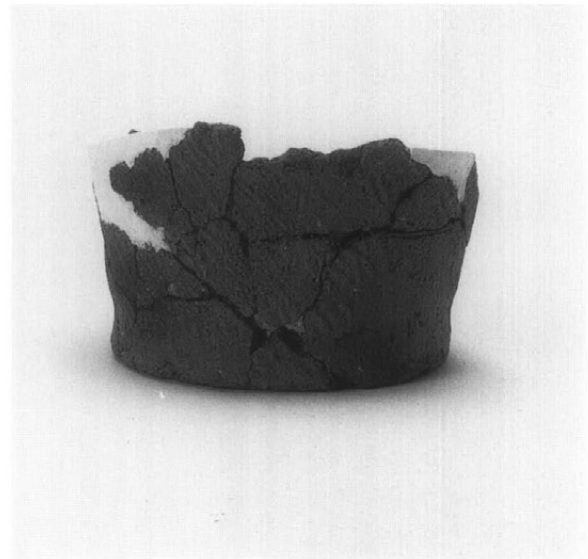
OOK SB01 深鉢



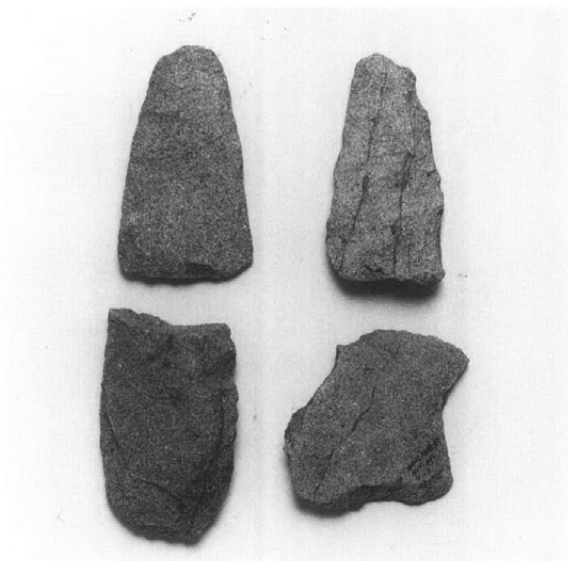
OOK SB01 深鉢



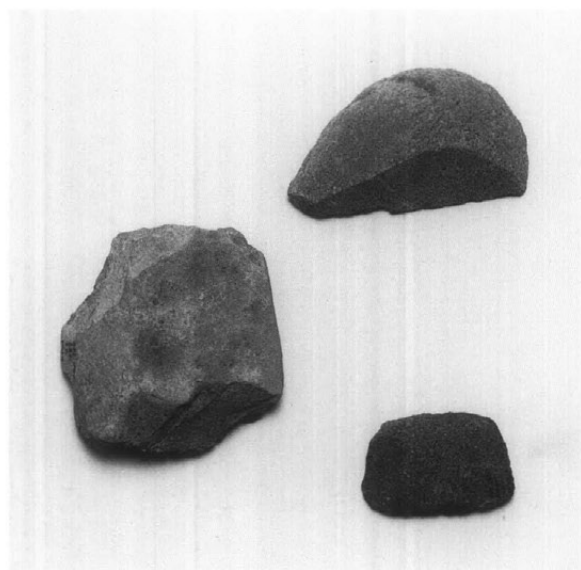
OOK SB01 深鉢



OOK SX01 深鉢



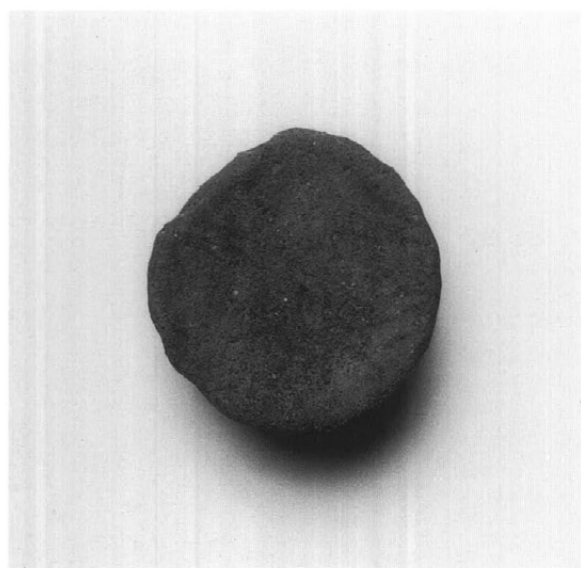
OOK 石器



OOI SD01 深鉢



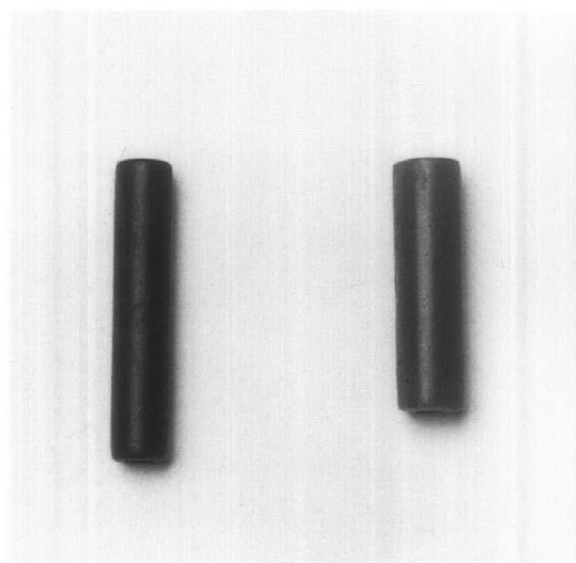
OOI 石器



OOI SD01 耳栓



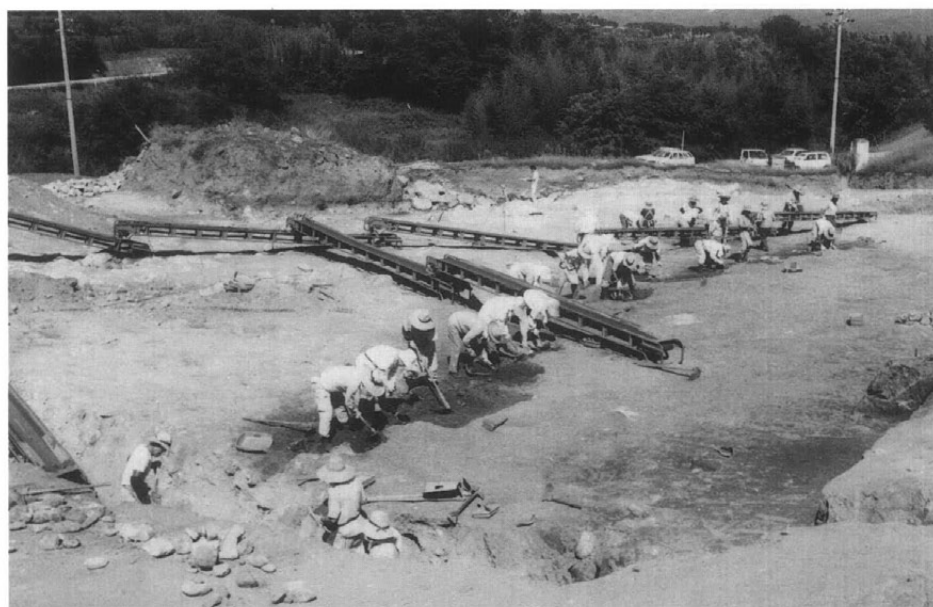
同 側面



OOI SD01 管玉



〇〇K 調査スナップ



〇〇I 調査スナップ



〇〇I 調査スナップ





# 報 告 書 抄 録

	おおい                      おお く ほ							
書 名	大井遺跡・大久保遺跡							
副書名								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	山下 誠 一                      佐々木 嘉 和							
編集機関	飯田市教育委員会							
所在地	〒395 長野県飯田市上郷飯沼3145番地 TEL 0265-53-4545							
発行年月日	西暦1997年 3月14日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村    遺跡番号		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
おおくほ 大久保	<small>ながの</small> 長野県 <small>いいた</small> 飯田市 <small>ぎこうじ</small> 座光寺	2053		35度 32分 40秒	137度 50分 40秒	19950711 ～ 19950719	150	県単農道整備事業湯ヶ洞地区
おおい 大井	<small>ながの</small> 長野県 <small>いいた</small> 飯田市 <small>ぎこうじ</small> 座光寺	2053		35度 32分 45秒	137度 50分 50秒	19950713 ～ 19950904	2,169 下層調査 を含む	県単農道整備事業湯ヶ洞地区
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大久保	集落址	縄文時代	竪穴住居址 1軒 土坑            2基 穴                8		縄文土器・石器		縄文時代中期初頭の竪穴住居址落を調査した	
大井	その他	縄文時代	集石炉            3基		縄文土器・石器 耳栓 管玉		集石炉と南大島川の旧河道を調査した	



---

---

## 大井遺跡・大久保遺跡

1997年3月14日 発行

編集・発行 長野県飯田市上郷飯沼3145番地

飯田市教育委員会

印刷 杉本印刷株式会社

---

---

